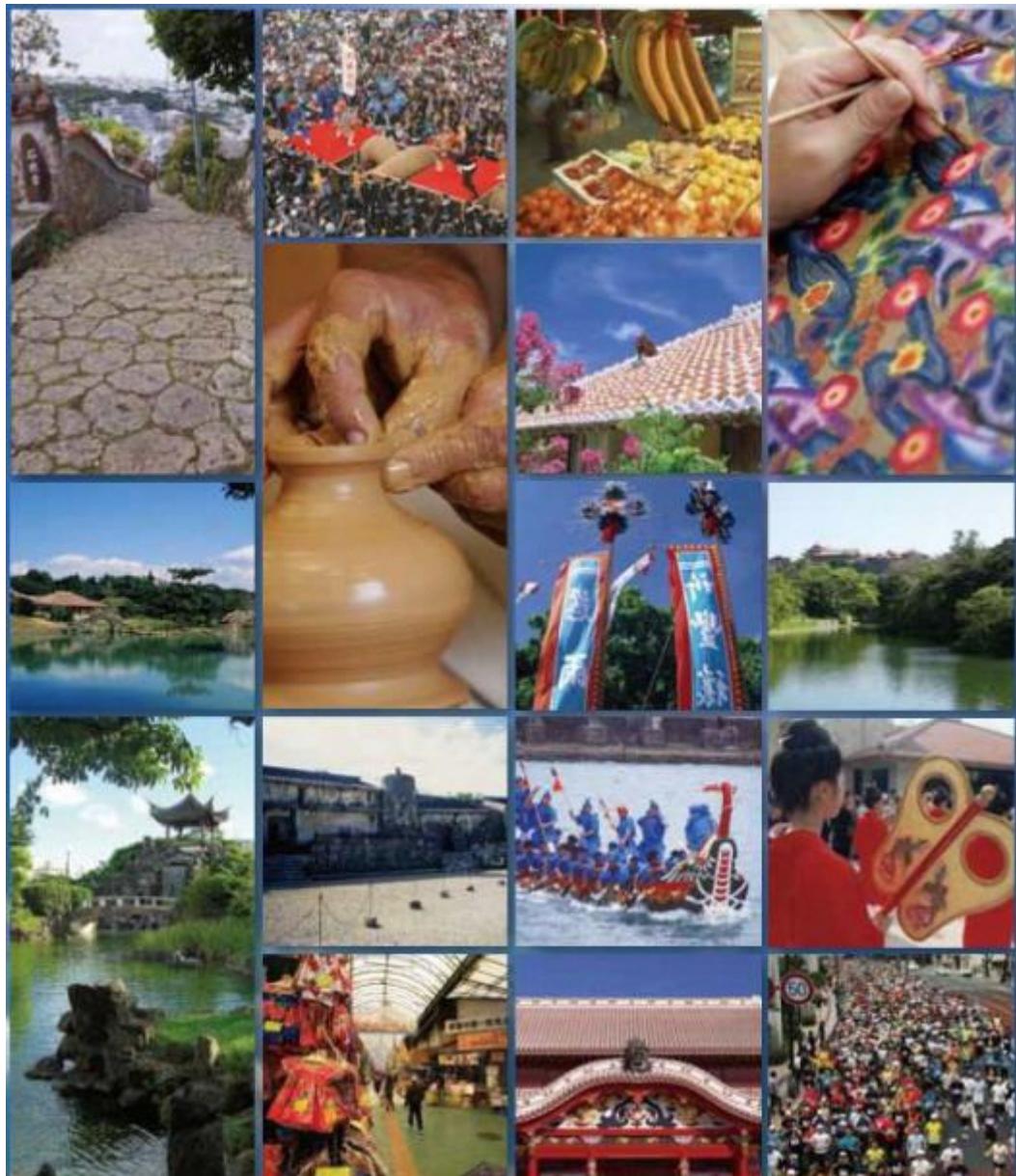


第2次那霸市觀光基本計画 素案



はじめに

市長あいさつページ

目次

第1章 計画改定の概要

1 計画改定の経緯	P4
2 計画の位置づけ	P5
3 計画期間	P6

第2章 那覇市を取り巻く状況

1 国内外の観光動向	P7
(1) 概観	P8
(2) 世界潮流	P9
(3) 国内動向	P11
(4) 沖縄県の動向	P13
2 那覇市の観光を取り巻く現状	P15
(1) 那覇市の観光概観	P16
(2) 那覇市の観光実態	P17
(3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価	P20
3 第1次那覇市観光基本計画の振り返り	P23
(1) 目標値に関する振り返り	P24
(2) 第1次那覇市観光基本計画の取組の展開における振り返り	P25
(3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の振り返り	P27
4 計画改定に取り込む視点	P28

第3章 将来像と取組の柱

1 目指す将来像	P31
2 取組の柱と核とする観点・推進力	P32
3 目標値	P35
4 観光ゾーニング	P37

第4章 取組の体系および具体的な内容

1 取組の体系	P41
2 取組の内容	P43

第5章 推進体制と進捗マネジメント

1 推進体制の概要と基本役割	P57
2 進捗のマネジメント	P58

第1章 計画改定の概要

1. 計画改定の経緯
2. 計画の位置づけ
3. 計画期間

1. 計画改定の経緯

那覇市では、第4次那覇市総合計画（2008年（平成20年）～2017年（平成29年）に掲げる「人も、まちも生きいき、美ら島の観光交流都市」の実現に向けて、沖縄県の観光振興基本計画等との整合を図りながら那覇市観光基本計画（以下、「本計画」といいます。）を2015年度（平成27年度）から2024年度（令和6年度）までの10年間を計画期間として、様々な観光施策に取り組んできました。

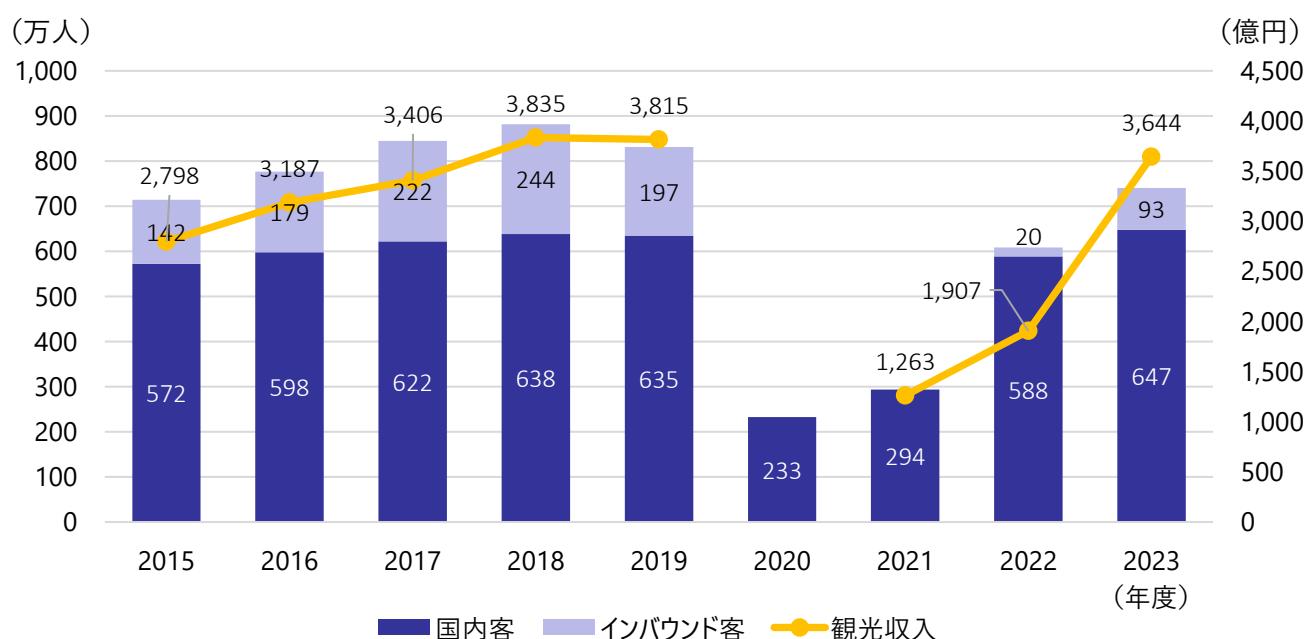
計画期間の間、豊富な観光資源を通じた国内外からの観光客の集客により、2015年度（平成27年度）の計画初年度は7,142,729人であった観光客が、2018年度にはインバウンドの増加を中心に8,818,403人と堅調に推移してきました。

しかしながら、2020年（令和2年）からの新型コロナウイルス感染症（以下、「コロナ」といいます。）の世界的な流行によって、2021年（令和3年）の観光客数は対2018年比で66.7%減少し、観光収入も67.1%の減少と、市内の観光産業は大きな打撃を受け、地域経済や雇用、市民生活にまで深刻な影響を及ぼしました。

コロナの影響を踏まえて、前計画の中間見直しについては保留とし、併せて、本市観光関連産業への支援や誘客活動などによる観光回復を牽引する観光施策の当面の方向性を示すため、「那覇市コロナ期観光回復戦略」（以下、「コロナ期戦略」といいます。）を策定しました。

コロナを踏まえて、本市における観光振興の重要性を再確認し、観光振興を取り巻く世界潮流の変化、より多様化した観光客のニーズ、浮き彫りとなった本市の観光課題等を捉えるとともに、ゲートウェイ2050で示されている構想も見据えながら地域一体となって持続可能な観光振興を推進するべく、本計画の改定を行います。

図表Ⅰ　那覇市の観光入込観光客数および観光収入の推移



出所：那覇市「那覇市観光統計」（2024年度）

※2020年度は観光収入の調査実施なし

2. 計画の位置づけ

本計画は、那覇市の長期的な総合計画である「第5次那覇市総合計画」（2018年度（平成30年度）～2027年度（令和9年度））のめざすまちの姿や施策の方向性との整合を図り、取り組むものとします。また、基本的に、前計画と同様に「那覇市総合計画」を上位計画とし、関連する本市の他分野の計画や第6次沖縄県観光振興基本計画等と連動・整合させたものとします。

観光は、沖縄県において県経済を牽引する基軸産業の1つとされており、第三次産業の事業者が9割を超える本市においても、第5次那覇市総合計画において重要産業であることが明記されています。

総合計画の中では、5つの「めざすまちの姿」が示されており、観光はすべての将来像に関連しつつ、中でも「ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまちNAHA」は、特段関連が深い将来像であるといえます。

図 本計画の位置づけ

第5次那覇市総合計画 (2018年度（平成30年度）～2027年度（令和9年度）)

第5次那覇市総合計画で示された観光関連の方向性

【将来像とめざすまちの姿】



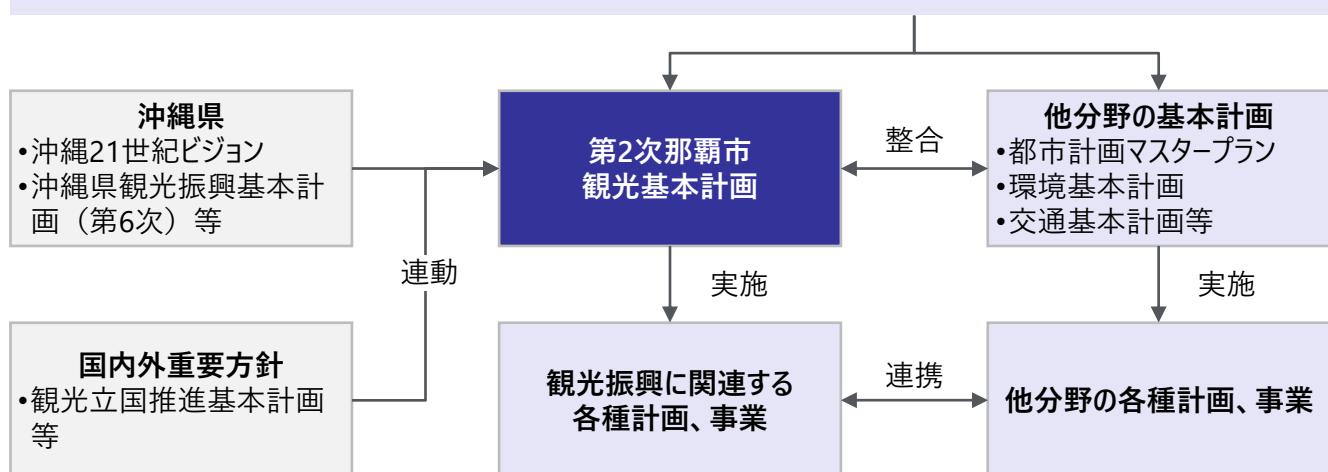
【関連する方向性】

▶ 特段、観光と関連する「めざすまちの姿」

- ・ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる
万国津梁のまちNAHA

▶ 特段、観光との関連する施策

- ・施策30：国際化に対応した観光環境の整備されたまちをつくる
- ・施策31：那覇らしい観光資源の発掘・創造と魅力のあるまちをつくる

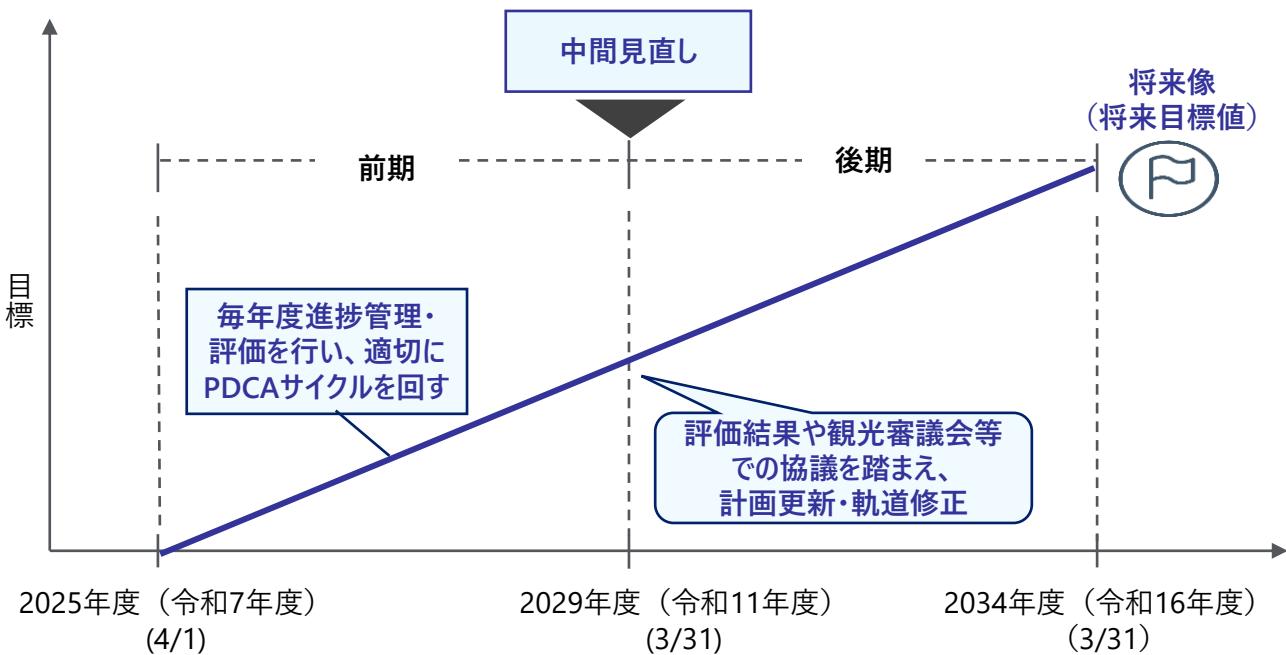


3. 計画期間

本計画の期間は、2025年度（令和7年度）から2034年度（令和16年度）までの10年間までとし、前期と後期を設定します。なお、進捗管理と評価は毎年実施し、適切にPDCAサイクルを回していきます。

並行して前期（2025年度（令和7年度）～2029年度（令和11年度））終了前後に、観光を取り巻く環境変化や、外部の協議会等による評価結果を踏まえ、必要に応じた計画更新を図り、後期（令和12年度～令和16年度）へ繋げるものとします。

図 前期・後期期間の推進イメージ



第2章 観光を取り巻く状況

1. 国内外の観光動向

- (1) 概観
- (2) 世界潮流
- (3) 国内動向
- (4) 沖縄県の動向

2. 那覇市の観光を取り巻く現状と課題

- (1) 那覇市の観光概観
- (2) 那覇市の観光実態
- (3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

3. 第1次那覇市観光基本計画の振り返り

- (1) 目標値に関する振り返り
- (2) 第1次那覇市観光基本計画の取組の展開における振り返り
- (3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

4. 計画改定に取り込む視点

1. 国内外の観光動向

(1) 概観

コロナを経た国内外の旅行需要は“量から質へ”と転じており、世界的に「持続可能な観光」への関心が高まっています。また、円安の進行やワーケーションなどの多様な滞在スタイルにより、インバウンドや国内旅行客が増加傾向にあります。一方で、観光産業の人材不足やオーバーツーリズムによる悪影響等の課題が深刻化しています。

政治的、経済的、社会的、技術的な国内外の観光動向を把握し、対応していくことが求められます。

図 国内外の観光動向におけるPEST分析結果

政治的要因 (Politics)	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 機会 脅威 </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ 持続可能な形での観光立国の復活に向けた観光立国推進基本計画の改定 ■ 政府による「観光地・観光産業における人材不足対策」や「地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値化」の推進 ■ 特定技能2号の宿泊業への適用による観光産業を支える人材としての海外技能者の受入れ (2024年～)
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 機会 脅威 </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ 円安の進行によるインバウンド需要の回復・増加 ■ 円安や燃油費高騰の影響による日本人観光客の海外旅行（アウトバウンド）から国内旅行へのシフト ■ IR開業に伴うMICE分野における国際競争力の向上 ■ 産学官民での連携の重要性の高まり
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 機会 脅威 </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ ワーケーションおよびノマド等の多様な滞在スタイル ■ 海外旅行市場におけるサステナビリティに対する関心の高まり ■ インクルーシブの理念の浸透による、あらゆる観光客の受入が可能な体制整備の対応 ■ 在留外国人の増加に伴うVFR（Visit Friends and Relatives）^{*1}の増加
	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> 機会 脅威 </div> <ul style="list-style-type: none"> ■ デジタル技術活用などマーケティング手法の多様化 ■ 観光MaaS（Mobility as a Service）等の普及による周遊観光の拡大 ■ クルーズ船の新規造船や大型化による、訪日クルーズ旅客数の増加

* 1 VFR (Visit Friends and Relatives) ...友人や親戚を訪問することを目的とした旅行を指す言葉

1. 国内外の観光動向

(2) 世界潮流 (1/2)

一時各国でコロナ防止策として導入された入国規制が緩和され、2021年から徐々に国際観光客数が増加傾向にあります。UN Tourism（国連世界観光機関）の調査では、2023年の国際観光客数は13億11万人（前年比33.4%増）となり、コロナ前の2019年水準の約9割まで回復し、今後も増加することが想定されます。また、国際観光客数の増加に伴い、国際観光支出も増加しており、2023年の国際観光収入は1兆5070億米ドル（前年度比33.8%増）でした（図表II）。

近年、日本は世界からの注目度がさらに上がり、「世界で最も魅力的な国ランキング」で1位となる等、今後はさらなる観光客の増加が期待されます。

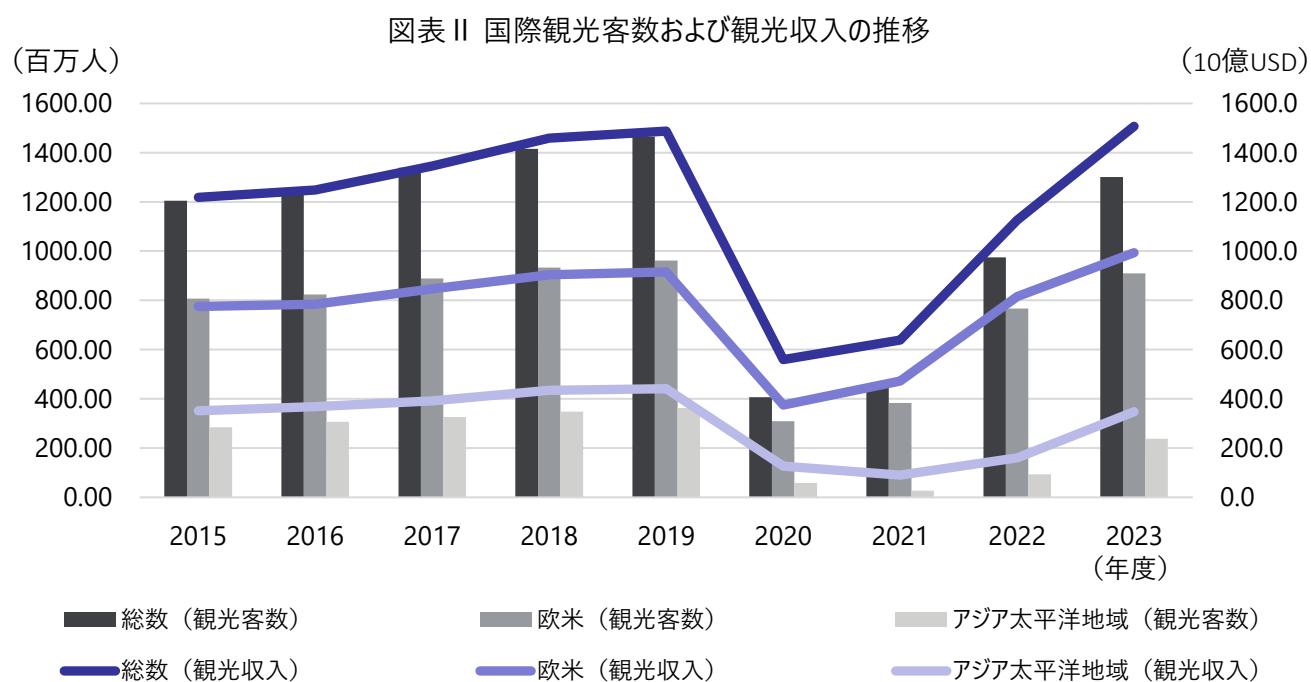


図 世界で最も魅力的な国ランキング

Condé Nast Traveler Readers' Choice Awards 2023			
The Best Countries in the World (上位10位)		The Best Cities in the World (大都市部門 上位10位)	
1位：日本		1位：シンガポール	
2位：イタリア		2位：東京	
3位：ギリシャ		3位：ソウル	
4位：アイルランド		4位：ケープタウン	
5位：ニュージーランド		5位：シドニー	
6位：スペイン		6位：コペンハーゲン	
7位：ポルトガル		7位：オスロ	
8位：イスラエル		8位：バンクーバー	
9位：ノルウェー		9位：メルボルン	
10位：スイス		10位：エジンバラ	

1. 国内外の観光動向

(2) 世界潮流 (2/2)

世界的に旅行形態として「持続可能な観光」への関心・需要が高まっています。UN TourismやWEF（世界経済フォーラム）等の観光に関する国際機関の方向性では共通して持続可能な開発目標（以下SDGs）の達成を目指しており、発行物等からは、サステナブルやインクルーシブ、レジリエンスなどの社会課題に関するキーワードが多く活用されています。また、自然や体験アクティビティに対する需要が増加しており、アドベンチャーツーリズム市場は2021年には2,821億米ドルであった中、その後の年間成長率は15.2%であり、2030年までには1兆米ドル以上に達すると予測されています¹。

那覇市への来訪が多いアジア太平洋諸国や欧米豪の動向の変遷として、海外旅行に対する需要や、特定地域でしか体験できないコンテンツの充実化への需要が両地域で高まっています²。アジア太平洋諸国では、海外旅行への意欲は次第に回復していることやリラックスや癒しを目的とした旅行を求めていることから、プロモーションを強化しつつニーズを踏まえた観光資源の造成・磨き上げを行うことが考えられます。欧米豪の海外旅行への意欲はアジアに先駆けて回復しており訪日旅行熱が高まっていることやサステナブルへの意識が高まっていることを踏まえ、プロモーションを強化しつつサステナブルを意識した受入体制整備を進めていくことが考えられます。

図 国際機関の発行物等から導出されるキーワード



¹出典：Grand View Research「Adventure Tourism Market Size & Growth Report 2022-2030」（令和4年度）

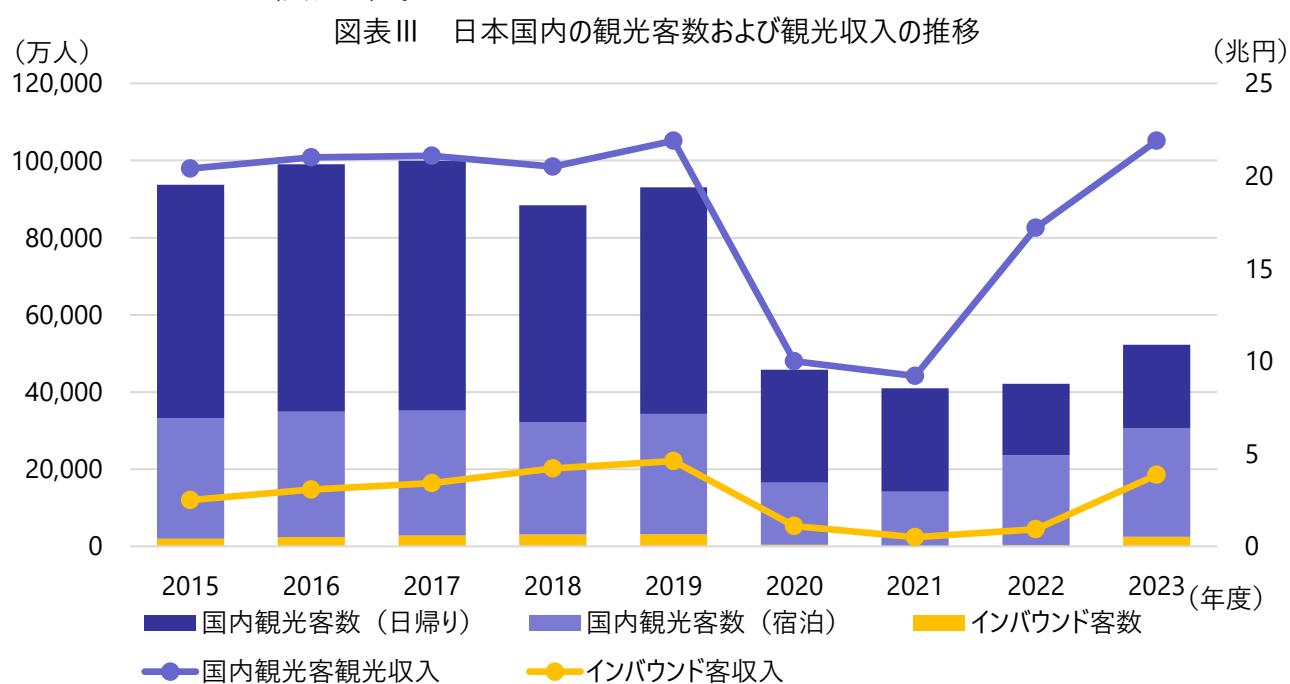
²出典：DBJ・JTBF「アジア・欧米豪訪日外国人旅行者の意向調査」（令和4年度）

1. 国内外の観光動向

(3) 国内動向 (1/2)

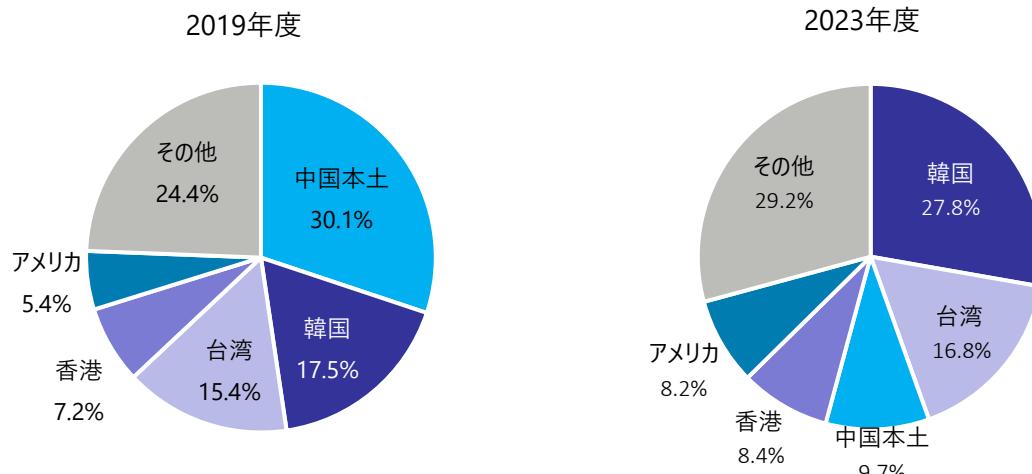
日本国内においてもコロナの影響により、2020-2021年度は観光客数・観光収入ともに落ち込みましたが国内観光客数は2022年度から回復傾向にありました。2023年度にはインバウンド数も回復し、国内観光客数（日帰り）は21,623万人、（前年比16.6%増）、国内観光客数（宿泊）は28,135万人（前年比21.0%増）であり、インバウンド数は2,507万人（前年比554.6%増）と、日本国内の観光客数の総数が52,265万人（前年度比23.9%増）で2019年度比43.8%減の状態である（図表III）が、今後はコロナ前水準への回復および拡大が見込まれます。

また、日本国内のインバウンドの国別割合では、依然として韓国、台湾、中国本土、香港等の東アジア地域が大半を占めているものの、アメリカ等の割合がコロナ前より増えていることから、多様なインバウンドのニーズに対応していくことが求められます（図表IV）。



出典：観光庁「観光入込客統計」をもとに作成

図表IV 国内のインバウンド客における上位5か国の構成割合（2019年度・2023年度比）



出典：日本政府観光局(JNTO)「訪日外客統計」をもとに作成

1. 国内外の観光動向

(3) 国内動向 (2/2)

観光庁の観光立国推進基本計画の第4「観光立国の実現に関する施策を総合的かつ計画的に推進するため必要な事項」の4.「地域単位の計画の策定」では、『この基本計画や観光を巡る情勢の変化などを踏まえ、必要な計画の策定や見直しを行うことが望まれる』と記載されており、第4次観光立国推進基本計画においては世界潮流を踏まえた改訂が行われたことがうかがえます。

第4次観光立国推進基本計画では、「持続可能な観光」、「消費拡大」及び「地方誘致促進」をキーワードに、"量から質"の向上を重視しています。

具体的に、第4次観光立国推進基本計画の目標では、新たに「訪日外国人旅行消費額単価」や「訪日外国人旅行者の一人当たりの地方部宿泊数」等が設定されており、総額といった"量"を重視するのではなく"質"を重視した目標となっています。また、新たに「持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数」が目標として設定されており、観光現場における「持続可能性」を重要視した目標が追加されています。

図 観光立国推進基本計画目標

第3次観光立国推進基本計画目標

1. 国内旅行消費額
2. 訪日外国人旅行者数
3. 訪日外国人旅行消費額
4. 訪日外国人旅行者に占めるリピーター数
5. 訪日外国人旅行者の地方部における延べ宿泊者数
6. アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合
7. 日本人の海外旅行者数

青字：新たに追加された目標

第4次観光立国推進基本計画目標

1. 持続可能な観光地域づくりに取り組む地域数
2. 訪日外国人旅行消費額
3. 訪日外国人旅行消費額単価
4. 訪日外国人旅行者一人当たり地方部宿泊数
5. 訪日外国人旅行者数
6. 日本人の海外旅行者数
7. アジア主要国における国際会議の開催件数に占める割合
8. 日本人の地方部延べ宿泊者数
9. 国内旅行消費額

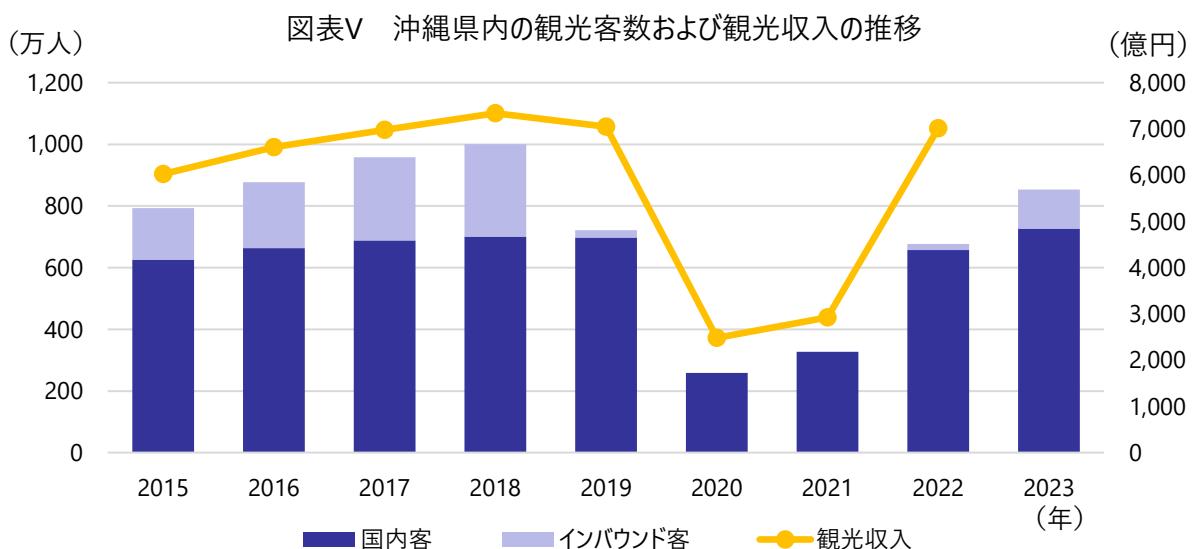
出典：観光庁「観光立国推進基本計画」（令和5年）

1. 国内外の観光動向

(4) 沖縄県の動向 (1/2)

沖縄県内でもほかの地域同様に2020-2021年度の観光客が落ち込み、沖縄県のインバウンド客は0人となったものの、全国旅行支援やFIBAバスケットボールワールドカップ沖縄開催等が沖縄の観光回復の後押しとなり、国内客およびインバウンド客の双方において、コロナ前水準まで回復してきております。2023年度には沖縄県は853万人（前年比25.9%増）で2019年度の約90.1%まで回復しています。また、沖縄県における観光収入は、2022年度には7,013億円（前年比139.9%増）で2019年度の99.5%まで回復しています（図表V）。

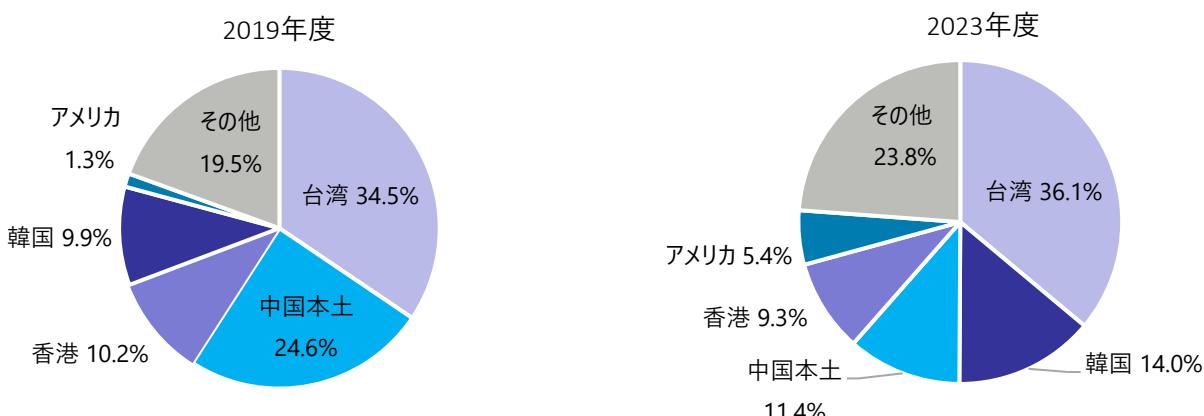
沖縄県のインバウンド客の国別の割合は、2019年度は上位5か国が台湾、中国本土、香港、韓国、アメリカであったものの、2023年度には台湾、韓国、中国本土、香港、アメリカの順となっており、韓国の直行便の新設や中国本土からのコロナ回復の遅れが沖縄県の動向の変化の要因として考えられます（図表VI）。今後も沖縄県の観光振興基本計画にも記載の「フライ・アンド・クルーズ」を推進し、空の便は欧米豪等の直行便の新規開設や大型クルーズ船の受入強化を視野に入れ、インバウンド客の増加とともに更なる多様化を図ります。



出典：沖縄県「沖縄県入域観光客統計概況」をもとに作成

※2023年度の観光収入は未公開のため
2022年度までの数値を記載（2024年8月時点）

図表VI 沖縄県のインバウンド客における上位5か国の構成割合（2019年度・2023年度比）



出典：沖縄県「沖縄県入域観光客統計概況」をもとに作成

1. 国内外の観光動向

(4) 沖縄県の動向 (2/2)

沖縄県では、第6次沖縄県観光振興基本計画の中で新たに「持続可能」や「脱炭素」、「ICTの活用」等の記載が追加されています。上記から、沖縄県は世界や国の方針性等と同様に、「持続可能な観光」を重要視しており、また、地域一体とした観光地として、観光人材の不足をデジタル技術等で担っていくことの重要性を感じることができます。

図 第6次沖縄県観光振興基本計画の概要

青字：重要性が高いと考えられる内容

太字：第6次沖縄県観光振興基本計画にて新しく登場した内容

第6次沖縄県観光振興基本計画期間：10年間 | 2022年度～2031年度

【沖縄観光の目指す将来像】

「世界から選ばれる持続可能な観光地」

-世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」-

3つの方向性

- (1) 平和で生き生きと暮らせる県民、観光事業者、観光客の全てが幸せな三方よしの社会
- (2) 世界とつながり、時代を切り拓く「強くしなやかな自立型経済の構築」
- (3) 人々を惹きつけ、ソフトパワーを具現化する「持続可能な海洋島しょ圏」の形成

基本施策1 安全・安心・快適でSDGsに適応した観光地マネジメント

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ➢ 危機管理体制の見直し・強化 ➢ 県民生活・社会と調和の取れた観光振興の実現 ➢ サステナブルツーリズムの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ レスポンシブルツーリズムの推進 ➢ ユニバーサルツーリズムの推進 ➢ 安定的な財源の確保と推進体制の構築 |
|--|--|

基本施策2 多彩かつ質の高い観光に向けたDXの推進

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➢ ターゲットマーケティングと効率的なプロモーションの推進 ➢ デジタル化・観光DX・ICTの活用による利便性の向上 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 外国人観光客への対応強化 ➢ 観光収入の確保と経済効果の発揮 |
|---|---|

基本施策3 沖縄のソフトパワーを生かしたツーリズムの推進

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➢ 自然を活用したツーリズムの推進 ➢ 文化・伝統・芸能を活用したツーリズムの推進 ➢ 地元の食材等を活用した食と土産品の品質向上 ➢ マリンタウン MICEエリアの形成を核とした戦略的なMICEの振興 ➢ 教育旅行・交流の推進 ➢ 空手ツーリズムの推進 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ スポーツツーリズムの推進 ➢ 沖縄の温暖な気候を活用したツーリズムとウェルネスツーリズムの推進 ➢ 質の高いクルーズ観光体験の推進 ➢ カップルアニバーサリーツーリズムの展開 ➢ ICTを活用した新たな観光コンテンツの推進対応強化 |
|--|---|

基本施策4 基盤となる旅行環境の整備

- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ➢ 空港 ➢ 宿泊施設 ➢ 港湾 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 抱点整備 ➢ 観光二次交通 ➢ 沖縄らしい風景づくり |
|--|--|

基本施策5 脱炭素・グリーンリカバリーへの積極的な対応

基本施策6 人材育成と人材確保の推進

- | | |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ➢ 質の高いサービスを提供できる観光人材の育成・確保 | <ul style="list-style-type: none"> ➢ 観光業界における雇用環境の改善 |
|--|---|

第2章 観光を取り巻く状況

1. 国内外の観光動向

- (1) 概観
- (2) 世界潮流
- (3) 国内動向
- (4) 沖縄県の動向

2. 那覇市の観光を取り巻く現状と課題

- (1) 那覇市の観光概観
- (2) 那覇市の観光実態
- (3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

3. 第1次那覇市観光基本計画の振り返り

- (1) 目標値に関する振り返り
- (2) 第1次那覇市観光基本計画の取組の展開における振り返り
- (3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

4. 計画改定に取り込む視点

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

(1) 那覇市の観光概観

那覇市の観光特性として、那覇空港・那覇港が市内に立地しており沖縄のゲートウェイとして来訪者が多く集まること、宿泊・飲食・観光施設等が充実していること、伝統芸能や工芸が有名であること等が強みであると考えられます。一方で、滞在時間が短いこと、交通の利便性が悪いこと、交通渋滞やマナー違反等の問題が多いこと、人材不足により観光需要に対する供給が十分でないこと等が弱みであると考えられます。

社会経済の情勢を踏まえると、コロナが落ち着いたことにより観光客数は回復しており消費額の増加も期待されるものの、観光地間の誘客競争の激化や国際情勢の変化などにより、一層地域一体として観光振興に力を入れることが必要です。

図 内部環境および外部環境を踏まえたSWOT分析

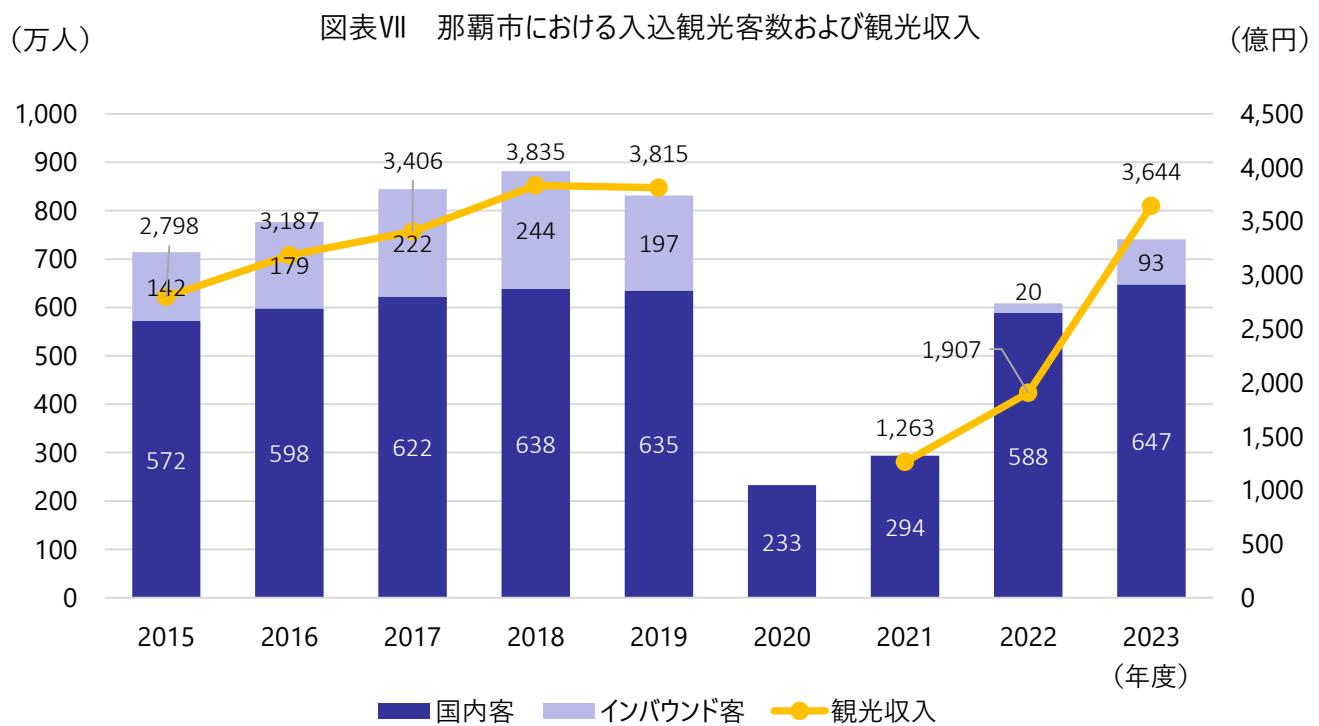
内部環境 (那覇市の 観光特性)	強み Strength	弱み Weakness
	①那覇空港・那覇港という交通結節点が市内に立地していること ②宿泊施設が多く充実していること ③国際通りをはじめとして、飲食店が多く充実していること ④都市型観光資源（博物館・美術館、ホール、ナイトライフ施設）と文化的な観光資源（首里城公園、波上宮、識名園など）が充実しており、コンパクトに集積していること ⑤エイサー・空手・琉球舞踊・組踊などの伝統芸能ややちむんや琉球ガラスなどの伝統工芸があり、有名であること	⑥平均宿泊数が1.52日と、比較的の短期間の滞在が多いこと ⑦バスやモノレールの本数や移動範囲が限られており、交通の利便性がよくなく、混雑も発生しやすいこと ⑧狭い道路や駐車場の不足などにより、頻繁に交通渋滞が発生すること ⑨騒音、ごみのポイ捨て、交通ルールの無視などのマナー違反が多発すること ⑩観光産業全体で人材が不足していること
外部環境 (社会経済 情勢)	A)新型コロナウイルスが落ち着いたことによるインバウンド客の増加 B)円安によるインバウンド客の消費額の増加 C)観光客の文化体験や自然体験、食体験等へのニーズの高まり	D)新型コロナウイルスから回復期にあたり、観光地間の誘客競争が激化 E)観光地側の持続可能性への関心の高まり F)国際情勢の変化によるインバウンドの入国減少

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

(2) 那覇市の観光実態

那覇市への入込観光客数は、コロナの影響で2020-2021年度は大幅に観光客数が減少し、一時は入国規制等でインバウンド客が0人となりました。しかし、2022年度からコロナの入国規制が緩和されはじめ、2023年度には那覇市は約741万人（前年比21.8%増）で2019年度の約61.4%まで回復しています。また、那覇市における観光収入も同様に2020-2021年度に落ち込んだものの、2023年度に那覇市は3,644億円（前年比91.1%増）で2019年度の95.5%まで回復しています（図表VII）。

第2クルーズバースの開港やゲートウェイ2050等により、一層国内客およびインバウンド客の双方が増えることが予想される中、今後は空港や港だけでなく、地域一体とした受入体制の強化を推し進めていくことが必要です。



出典：那覇市「那覇市の観光統計」「観光統計実態調査」をもとに作成

※2020年度は観光収入の調査実施なし

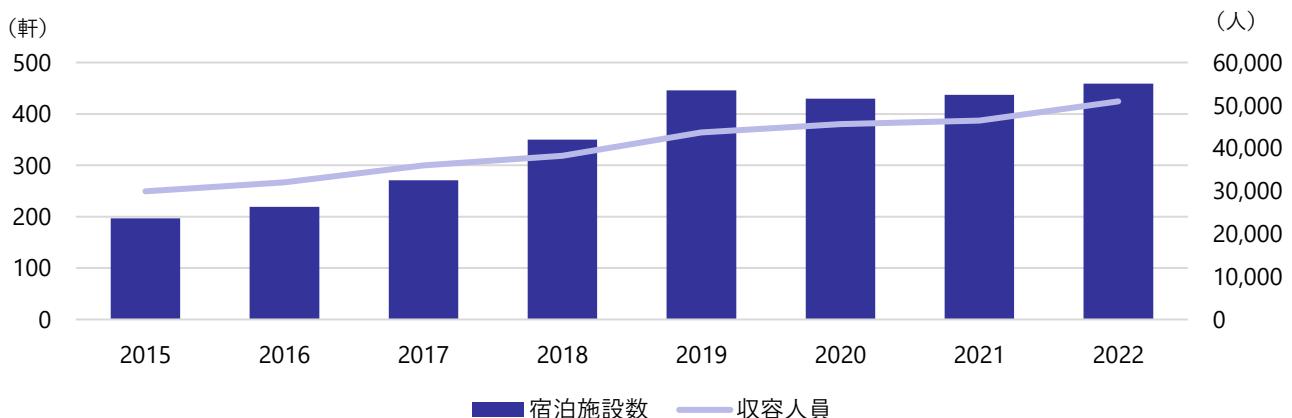
2. 那覇市の観光を取り巻く現状

那覇市では、コロナ拡大前より市内の宿泊施設数・収容人員数が増加しています（図表VIII）。

コロナの影響で一時年間延べ宿泊数は一時落ち込んだものの、2023年度には808万人泊（前年度比63.2%増）と過去10年の最高値まで成長しました（図表IX）。一方で、市内の平均宿泊数は1.58日（前年度比3.9%増）と、横ばいの数値となっています（図表X）。

上記のように宿泊施設数・収容人員数および延べ市内宿泊者数が増えている反面、市内平均宿泊数が思うように伸びていないため、観光客に那覇市への滞在時間を延長してもらうために、宿泊事業者だけでなく、飲食・小売事業者や旅行・MICE関連事業者等を含めた地域一体での取組が必要です。

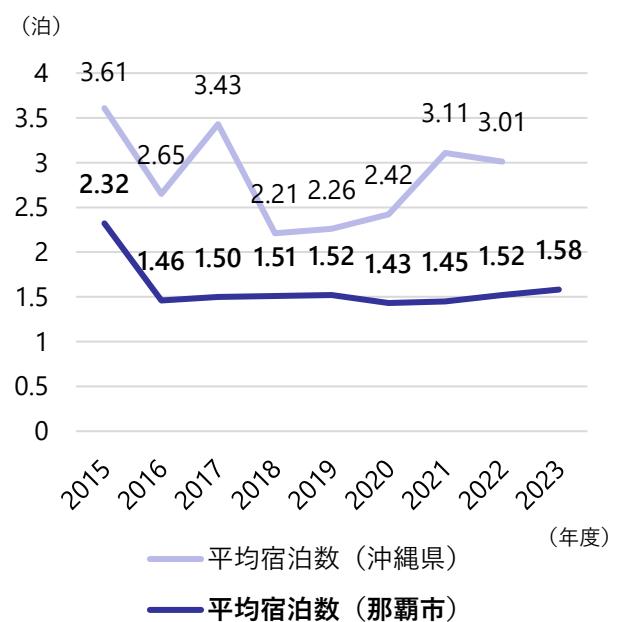
図表VIII 那覇市における宿泊施設数および収容人員数の推移



図表IX 沖縄県・那覇市における年間延べ宿泊客数



図表X 沖縄県・那覇市における平均宿泊数



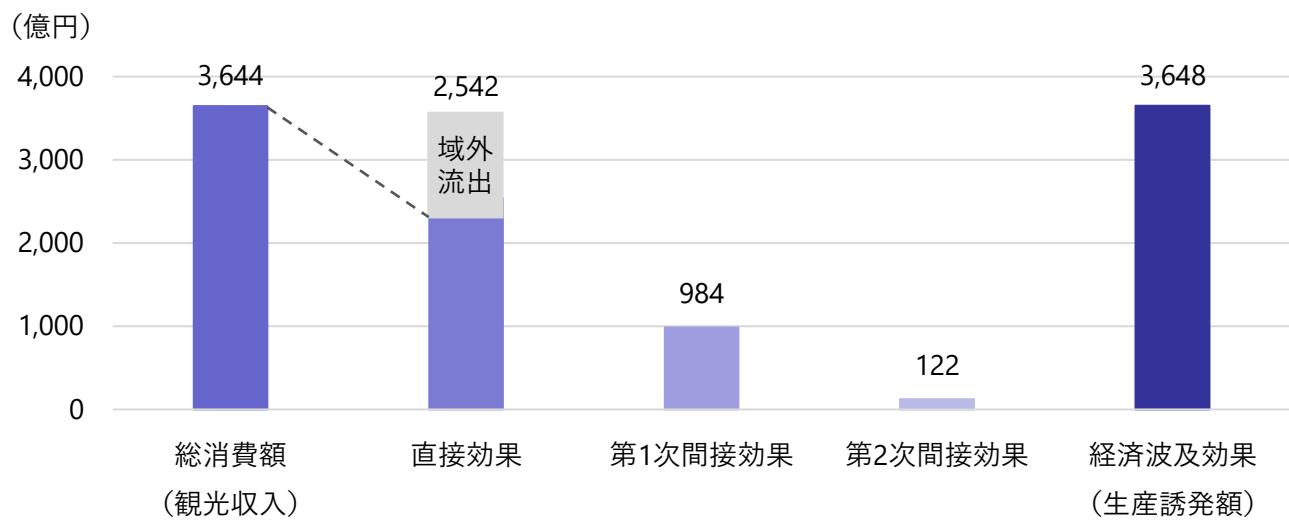
出典：那覇市「那覇市の統計」「旅行・観光消費動向調査」をもとに作成

※沖縄県における2023年度の数値は2024年8月時点では未公開のため、沖縄県は2022年度までの数値を記載

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

2023年度における那覇市の入込観光客数と観光収入を基に経済波及効果を推計すると、観光客に提供される商品やサービスのうち、那覇市内で調達された分の金額を示す直接効果は約2,542億円にのぼり、観光客に提供された商品やサービスに対して原材料等を提供する産業への影響を示す第1次間接効果が約984億円、更には直接効果及び第1次間接効果によってもたらされた収入増加による新たな消費への影響を示す第2次間接効果が約122億円と試算されました。これらの合計である約3,648億円が観光振興に伴う経済波及効果（生産誘発額）となります。

図表XI 経済波及効果の推定値

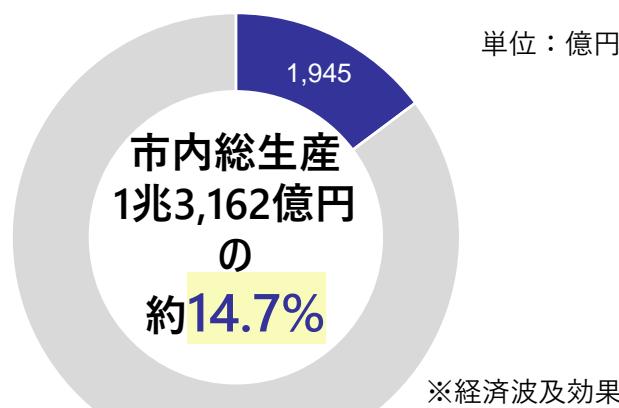


出典：那覇市「那覇市観光統計」「産業連関表」をもとに環境省「波及効果分析ツール」を用いて作成

また、推計された経済波及効果（生産誘発額）から観光振興における市内生産額の参考値を推計すると、約1,945億円となり、これは那覇市の市内総生産の約14.7%に相当します。

より一層、観光振興における経済波及効果を那覇市内に行き渡らせるためには、入込観光客数及び観光収入の増加だけではなく、市内で調達された商品やサービスの消費促進に取り組み、地産地消を促進していくことが必要となります。

図表XII 観光振興による粗付加価値が市内総生産に占める割合



※経済波及効果は推計値を採用しているため、
本割合は参考値となる

出典：那覇市「那覇市観光統計」「産業連関表」、沖縄県「沖縄県市町村民経済計算」をもとに作成

2. 那覇市の観光を取り巻く現状

(3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

本項は、2023年度に那覇市が実施した「基礎調査」の結果を基に記載しています。本項に抜粋した調査の概要は以下のとおりです。

①観光客（国内居住者）アンケート

調査対象：全国20歳～79歳の、国内に居住する「旅行先として那覇市へ行ったことのある」個人
調査方法：Webアンケート調査
調査実施期間：2023年9月20日から9月25日

③事業者アンケート

調査対象：那覇市内の観光関連事業者
調査方法：Webアンケートフォームを作成し、QRコードを紙にて郵送したうえでメールに配信
調査実施期間：2023年9月4日から10月16日

②観光客（インバウンド）アンケート

調査対象：空路・海路で訪那覇したインバウンド
調査方法：書面による対面アンケート調査
調査実施期間：2023年9月から11月の13日間

④市民アンケート

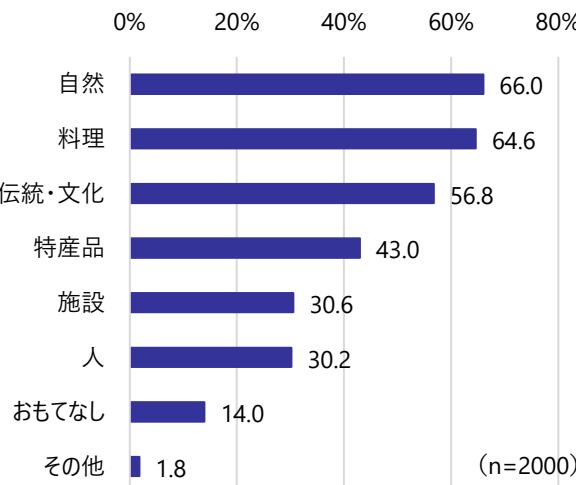
調査対象：那覇市内に居住する20歳以上の市民
調査方法：住民基本台帳に基づく無作為抽出を行い、郵送アンケート調査（Web・書面対応）
調査実施期間：2023年8月30日から10月6日

那覇市の魅力（イメージ）において、国内観光客は「自然」、「料理」、「伝統・文化」が上位3つである中、インバウンドは「伝統・文化」、「施設」、「自然」が上位3つにあがっており、国内観光客とインバウンド観光客でややニーズが異なります。また、那覇市でやってみたいことにおいては、国内観光客は「食体験コンテンツ」、「自然体験コンテンツ」、「文化・歴史体験コンテンツ」が上位3つである中、インバウンドは「文化・歴史体験コンテンツ」、「食体験コンテンツ」、「自然体験コンテンツ」が上位3つにあがりました。

上記から、国内外の観光客の自然に対するニーズは類似しているものの、国内観光客は特に食へのニーズが高く、インバウンド客は伝統・文化といったニーズが高いことが明らかとなり、観光客の満足度を上げるためにもそれぞれのニーズに対応するコンテンツ等を開発・磨き上げを行う必要があります。

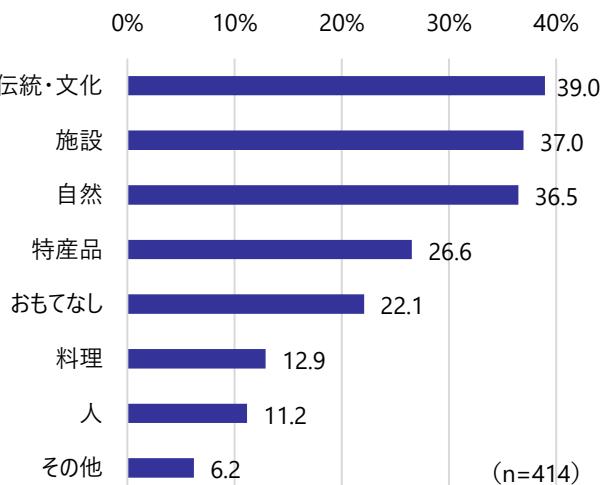
—国内観光客の思う那覇市の魅力（イメージ）—

あなたが思う観光地としての"那覇市の魅力（イメージ）"を教えてください。（当てはまるものを全て選択）



—インバウンドの思う那覇市の魅力（イメージ）—

あなたが思う観光地としての"那覇市の魅力（イメージ）"を教えてください。（当てはまるものを全て選択）



2. 那覇市の観光を取り巻く現状

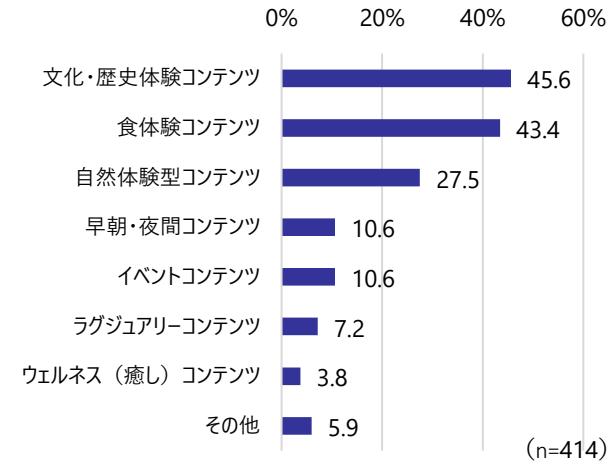
— 国内観光客の思う那覇市でやってみたいこと —

今後、那覇市では新たな観光コンテンツを拡充させていきたいと考えています。次の中から、那覇市でやってみたいことを教えてください。（当てはまるものを全て選択）



— インバウンドの思う那覇市でやってみたいこと —

今後、那覇市では新たな観光コンテンツを拡充させていきたいと考えています。次の中から、那覇市でやってみたいことを教えてください。（当てはまるものを全て選択）

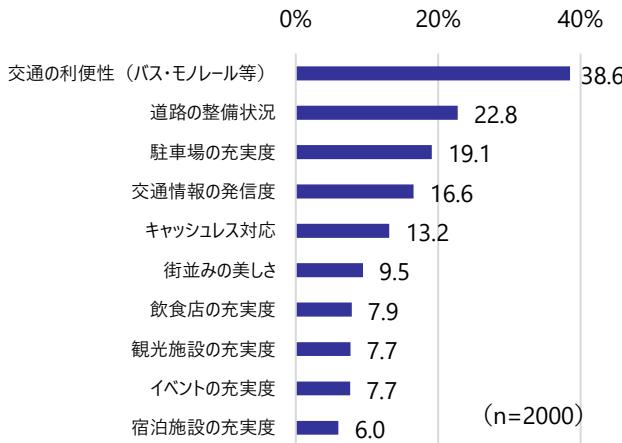


那覇市の改善すべき点において、国内外観光客は「交通の利便性（バス・モノレール等）」、「道路の整備状況」、「駐車場の充実度」とどれも交通関連の課題を挙げている一方で、インバウンドは「外国語（人）対応」、「交通の利便性（バス・モノレール等）」、「誘客宣伝」を課題にあげております。

「交通の利便性（バス・モノレール等）」においては国内外双方の観光客からの課題意識が強いことから、早期に対応し、改善すべきであると考えます。

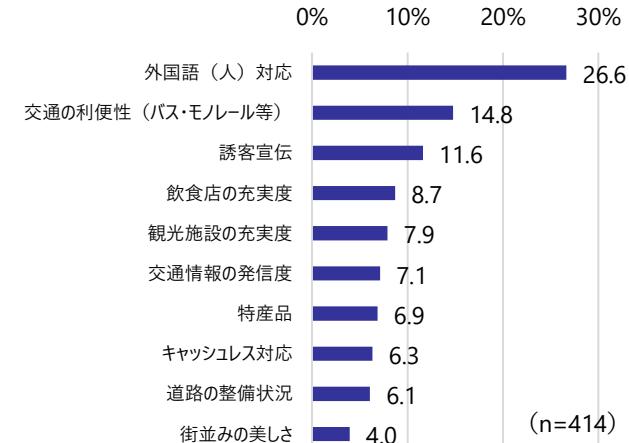
— 国内観光客の思う那覇市の改善すべき点 —

今後、那覇市が観光地として改善すべき（足りていない）と思う点について教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）



— インバウンドの思う那覇市の改善すべき点 —

今後、那覇市が観光地として改善すべき（足りていない）と思う点について教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）



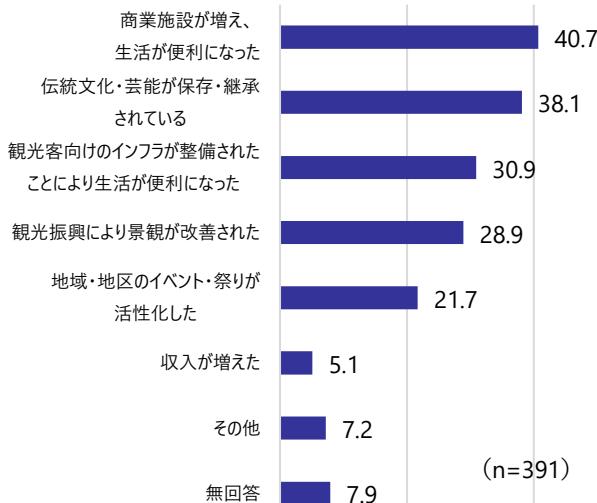
2. 那覇市の観光を取り巻く現状

観光振興により、市民は「商業施設が増え、生活が便利になった」、「伝統文化・芸能が保存され、継承されている」等、生活の利便性向上や伝統文化・芸能の継承等のプラスの影響を感じています。一方で、観光振興によつて「観光客が増え、交通機関が混雑する場面が増えた」「観光客による騒音・ゴミ・無断駐車等の問題が増えた」「観光客向けの商品が増えたことで物価が上昇した」と、観光客増加に伴う混雑やマナー問題等のマイナスの影響を高い割合で感じており、市民と観光振興の調和のためにも改善に取り組む必要性があります。

—— 市民が感じる観光振興によるプラスの影響 ——

あなたが住む地域において、観光振興によるプラスの影響があると思うものを教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）

0% 20% 40%



—— 市民が感じる観光振興によるマイナスの影響 ——

あなたが住む地域において、観光振興によるマイナスの影響があると思うものを教えてください。（当てはまるものを3つまで選択）

0% 20% 40% 60%



那覇市の観光関連事業者は、「従業員の働きやすさ」や「人材育成・人材教育」等、最大の課題である「人手不足」の改善に向けた取組に力を入れています。コロナ前以上の回復のためにも、観光関連事業者の人手不足を解消するための取組支援が今後必要であると考えます。

—— 事業者が経営面で力を入れている分野 ——

現在、経営面で力を入れている分野を教えてください（複数回答可）

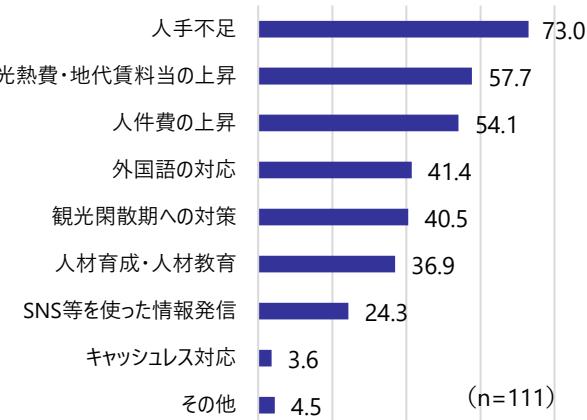
0% 20% 40% 60% 80%



—— 事業者が経営面で直面している課題 ——

観光客を対象とした経営面での課題について教えてください（複数回答可）

0% 20% 40% 60% 80%



第2章 観光を取り巻く状況

1. 国内外の観光動向

- (1) 概観
- (2) 世界潮流
- (3) 国内動向
- (4) 沖縄県の動向

2. 那覇市の観光を取り巻く現状と課題

- (1) 那覇市の観光概観
- (2) 那覇市の観光実態
- (3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

3. 第1次那覇市観光基本計画の振り返り

- (1) 目標値に関する振り返り
- (2) 第1次那覇市観光基本計画の取組の展開における振り返り
- (3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

4. 計画改定に取り込む視点

3. 第1次那覇市観光基本計画の振り返り

（1）目標値に関する振り返り

前計画では、「観光収入」、「観光客一人あたり市内消費額」、「延べ市内宿泊客数」の3つの目標値を設定し、目標の達成に向けて観光振興における取組を展開してきました。また、2020年度からのコロナの影響を踏まえ、2021年11月にコロナ期戦略を策定し、前計画から目標を変更し、コロナからの回復を目標に取組を展開しました。

前計画で設定したどの項目も前計画の目標を達成することはなかったものの、観光収入および観光客一人あたり市内消費額の目標達成度は80%前後となり、かなり当初の目標達成に近い数値となりました。また、延べ市内宿泊客数の前計画の目標達成度は62.2%だったものの、コロナ期戦略の目標を3.3%超える状況で達成し、コロナ前水準への回復だけでなく、コロナ前を上回る成長があったことが明らかになりました。

図 前計画と「那覇市コロナ期観光回復戦略」の将来目標値の達成状況

	2015年度	2019年度	2020年度	2024年度	前計画の目標 (コロナ期戦略)	前計画の目標達成度 (コロナ期戦略)
観光収入	2,798億円	3,815億円	— ※コロナ禍のため 取得不可	3,644億円	4,500億円 (3,815億円)	81.0% (95.5%)
観光客一人あたり 市内消費額	83,817円	74,156円	— ※コロナ禍のため 取得不可	71,229円	90,000円 (74,156円)	79.1% (96.1%)
延べ市内宿泊客数	774万人泊	782万人泊	561万人泊	808万人泊	1,300万人泊 (782万人泊)	62.2% (103.3%)

3. 第1次那覇市観光基本計画の振り返り

(2) 第1次那覇市観光基本計画の取組の展開における振り返り

前計画では、計7つの取組の展開をもとに観光振興に取り組んできており、本計画の取組の内容において具備する文言を整理しています。

<凡例> **青字**：本計画の取組の内容において具備した文言

取組の展開①

国際リゾート沖縄の拠点都市としての機能・魅力の充実

推進してきた主な取組

- ・ 第2クルーズバースの計画・開設・整備に係る取組を実施
- ・ 「那覇市都市型MICE振興戦略」の策定等のMICE観光誘致のための検討促進

今後の方向性

- ・ 交通ターミナル機能とクルーズ船受入機能の強化、MICEの誘致・機能強化・受入体制整備する
- ・ 那覇市への訪問機会を高めるために、周辺地域の魅力と掛け合わせた滞在価値の造成する
- ・ 国際的なリゾートとしてのプレゼンスを確立していくために、那覇らしい街並みや景観づくり等の取組を推進する

取組の展開②

沖縄・那覇らしい観光資源の発掘、創造と魅力向上

推進してきた主な取組

- ・ 首里城を含む沖縄・那覇らしい観光資源の発掘、創造と魅力向上に向けた補助金・支援金の提供
- ・ 新たに那覇らしいを発掘するための開発事業等も実施

今後の方向性

- ・ 行政、観光関連事業者、那覇市観光協会、教育機関、市民の地域一体で推進する
- ・ 那覇ならではの歴史文化・特産物などを保全し次世代に継承しながら、資源を活かしたコンテンツの発掘・創造・磨き上げ等の取組を継続的に推進する

取組の展開③

那覇ならではの受け入れ、おもてなしの体制強化

推進してきた主な取組

- ・ 防災・感染症対策等の定期的な実施
- ・ ユニバーサルツーリズムに向けたソフト・ハード面でのバリアフリーの整備および理解醸成

今後の方向性

- ・ 関係者間での連携強化を図り地域一体となり取組を推進する
- ・ だれもが安心・安全に観光できる環境整備を行うことを念頭に、SDGsや持続可能性に配慮したハード・ソフト両面の体制整備を推進する
- ・ 質の高い観光に向けて、観光関連事業者や市民の意識醸成等の取組を継続的に推進する

取組の展開④

市内回遊と交通ネットワークの連携・整備

推進してきた主な取組

- ・ フリンジパーキング等による混雑緩和に対する取組の展開
- ・ 徒歩での周遊などを楽しむために、立体植栽等の景観づくりに関する取組を展開

今後の方向性

- ・ 那覇空港や那覇港からの二次交通の利便性を向上させる取組を継続的に推進する
- ・ 公共交通機関（バスやゆいレールなど）、シェアサイクル、徒歩などの移動手段の充実化や交通情報の積極的な発信等にかかる取組を継続的に推進する

3. 第1次那覇市観光基本計画の振り返り

(2) 第1次那覇市観光基本計画の取組の展開における振り返り

<凡例> **青字**：本計画の取組の内容において具備した文言

取組の展開⑤

那覇市観光の内外への情報発信強化

推進してきた主な取組

- 那覇市観光協会ホームページの機能強化のための補助金を提供
- 情報発信の強化のため、まちなかに大型ビジョンやデジタルサイネージ等を設置

今後の方向性

- 那覇市観光の内外への情報発信にあたっては、SNS、アプリ、ICT技術、AI等の**デジタル技術の利活用促進**を図る
- 那覇市の観光客のニーズに合わせた**情報発信**を継続的に推進する

取組の展開⑥

外国人観光客への体制整備

推進してきた主な取組

- 観光案内所の運営補助金等を提供

今後の方向性

- 豊富な**データを利活用**し、**データ分析**を通じた**観光客のニーズを把握**したうえで、**適切なプロモーションや情報発信**を行いインバウンド等の誘客をする
- 来訪後の満足度向上に向けて多言語対応やWi-Fi環境整備、キャッシュレス決済整備等の**受入体制の強化**を図るための取組を継続的に推進する

取組の展開⑦

観光産業の持続的な発展支援

推進してきた主な取組

- 環境基本計画の策定等、環境保護に対応した取組の展開
- 観光理解醸成のための情報発信の実施

今後の方向性

- 持続的な観光産業の発展**に向けた継続な支援を提供する
- 観光振興と市民生活の調和**や、**環境への配慮**をしつつ、観光産業の発展支援を促すような取組を継続的に推進する

3. 第1次那覇市観光基本計画の振り返り

(3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

コロナ期戦略では、計4つの戦略の柱をもとに観光振興に取り組んできており、本計画の取組の内容において具備する文言を整理しています。

<凡例> **青字**：本計画の取組の内容において具備した文言

戦略の柱 ア

市民・観光客双方が安全安心な観光地

推進してきた主な取組

- ・国や県のガイドラインに従いながら感染症対策を行い対策内容を周知
- ・動向を注視しつつ、5類感染症として適切な対応を実施

今後の方向性

- ・感染症の蔓延のリスクを踏まえたうえで、必要に応じて感染症対策や対策内容の周知を行う

戦略の柱 イ

観光関連産業に対する支援

推進してきた主な取組

- ・給付金による支援や既存事業の業態転換や、市民や県民にクーポンや商品券の配布等の取組を展開
- ・早朝・夜間における観光コンテンツの創出や地域回遊の取組の促進

今後の方向性

- ・観光産業の売上や経営状況が回復しているため、追加支援施策の必要性が低くなったため、地域事業者の自走を支援するための取組を実施する
- ・継続的に観光コンテンツの創出・磨き上げ、プロモーション、保全・継承等を適切な支援方法を検討し実行する

戦略の柱 ウ

新しい旅行スタイルの取り込み

推進してきた主な取組

- ・ワーケーションのみならず静養やノマドの需要取り込みに係る取組の展開
- ・市民や県民にクーポンや商品券の配布等の取組を展開

今後の方向性

- ・コロナの影響による旅行スタイルの変化やニーズの変化を適切に把握したうえで、観光消費額が多く高い経済効果が見込まれるものに注力して取組を行う

戦略の柱 エ

デジタル技術活用促進

推進してきた主な取組

- ・各種調査の実施による観光客に関連するデータからニーズや動向等の把握
- ・AIカメラ等の設置による新規データの取得

今後の方向性

- ・より効率的に、より適切に事業を推進していくためにはデジタル技術の活用が非常に重要であるため、観光関連事業者に対して充分に支援する

第2章 観光を取り巻く状況

1. 国内外の観光動向

- (1) 概観
- (2) 世界潮流
- (3) 国内動向
- (4) 沖縄県の動向

2. 那覇市の観光を取り巻く現状と課題

- (1) 那覇市の観光概観
- (2) 那覇市の観光実態
- (3) 市民、事業者、観光客から見た那覇市のイメージ・評価

3. 第1次那覇市観光基本計画の振り返り

- (1) 目標値に関する振り返り
- (2) 第1次那覇市観光基本計画の取組の展開における振り返り
- (3) 那覇市コロナ期観光回復戦略の戦略の柱における振り返り

4. 計画改定に取り込む視点

4. 計画改定に取り込むキーワード

前項までの国内外の観光動向から取り込む視点、那覇市の観光を取り巻く現状を踏まえた課題、前計画および「那覇市コロナ期観光回復戦略」の振り返りを踏まえた課題でそれぞれ抽出されたキーワードをもとに、本計画の施策に取り込む視点を分野横断型重点キーワード及び取り込む視点のキーワードを整理しました。

取り込む視点の分野横断型重点キーワードは、「持続可能な観光」、「デジタル技術の活用」、「ステークホルダーとの連携」であり、第3章に記載の「事業化にあたっての核とする観点」となる項目として整理しています。また、取り込む視点のキーワードは第3章における「取組の柱」を抽出するための要素として整理し、本計画内で具備しています。

図表 国内外および那覇市の観光動向等を踏まえて本計画内に具備するキーワード

<p>【国内外の観光動向から取り込む視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 地域の持続可能な発展を見据えた観光振興 ➢ 地域一体での取組推進 ➢ 観光産業の再生・観光産業を担う人材の育成・確保 ➢ 多様な滞在スタイルへの対応 ➢ 産学官民の連携 ➢ 回復するインバウンド・国内観光客の需要の取り込み ➢ MICEの機能強化 ➢ デジタル技術の活用、観光DXの促進 	<p>【那覇市の観光を取り巻く現状を踏まえた主要課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ インバウンドの増加を鑑みた交通結節点の機能強化 ➢ 観光客のニーズを踏まえ観光資源を活かしたコンテンツの創出 ➢ 那覇ならではの観光資源を活かした独自のプロモーションの実施 ➢ 観光客のニーズに合致した体験の提供による滞在時間の延伸 ➢ 交通利便性の向上・混雑や渋滞緩和による周遊促進 ➢ 観光産業の人材の育成・確保による供給力の強化 ➢ 市民の生活への配慮、観光振興に対する理解醸成
<p>【前計画の振り返りを踏まえた主要課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 交通ターミナル機能とクルーズ船受入機能の強化 ➢ MICEの誘致・機能強化・受入体制整備の強化 ➢ 二次交通の利便性向上 ➢ 交通情報の発信 ➢ 那覇らしい街並みや景観づくり ➢ 歴史文化・特産物等の保全・継承 ➢ 観光客のニーズを踏まえたコンテンツの発掘・創造・磨き上げ ➢ SDGsや持続可能に配慮した観光産業の発展 ➢ デジタル技術の利活用 ➢ プロモーションや情報発信による誘客促進 ➢ 地域一体推進 ➢ 観光振興と市民生活の調和 	<p>【コロナ期戦略の振り返りを踏まえた主要課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ➢ 安心・安全な観光振興のための周知促進 ➢ 歴史文化・特産物等の保全・継承 ➢ 観光客のニーズを踏まえたコンテンツの発掘・創造・磨き上げ ➢ デジタル技術の利活用

取り込む視点の

分野横断型重点キーワード

持続可能な観光

デジタル技術の活用

ステークホルダーとの連携

取り込む視点の

キーワード

MICEの機能強化

滞在時間延長・周遊促進

観光産業の強化

地域一体での推進

交通の機能強化

プロモーション

多様なニーズへの対応・取り込み

市民の生活と観光振興の調和

第3章 将来像と取組の柱

1. 目指す将来像
2. 取組の柱と核とする観点・推進力
3. 観光ゾーニング
4. 目標値

1. 目指す将来像

本計画は、「第5次那覇市総合計画」（平成30年度～令和9年度）の目指すまちの姿や施策の方向性を踏まえ、更なる観光振興及び地域経済の活性化を推進し、観光交流都市である那覇の将来像を実現させるために改定を行うものです。

【将来像】

みんなでつくる、美ら島の持続可能な国際観光交流都市

前計画では、沖縄21世紀ビジョンが謳う世界水準のリゾート地沖縄の形成を担いながら、第4次那覇市総合計画に謳われている「観光交流都市」の実現が掲げられていました。また、国際化の流れが一層強まる中、観光を通じた交流だけでなく、国際的なビジネス拠点や物流拠点なども視野に入れた観光地づくりを進めるとともに、行政、市民、民間事業者がそれら那覇市の魅力や個性を誇りに持ちつつ、さらに磨き上げ、内外の観光客誘致に活用することで人も、まちも活き活きとした地域社会を目指していました。

本計画では、前計画の将来像を組み込みつつ、国内外の観光動向や那覇市の観光を取り巻く現状と課題を踏まえて、具備すべき観点である「持続可能な観光振興」を重視することを示すとともに、多様なステークホルダーの観光振興への理解を醸成し、地域一体となって「国際観光交流都市」づくりを進めていきます。

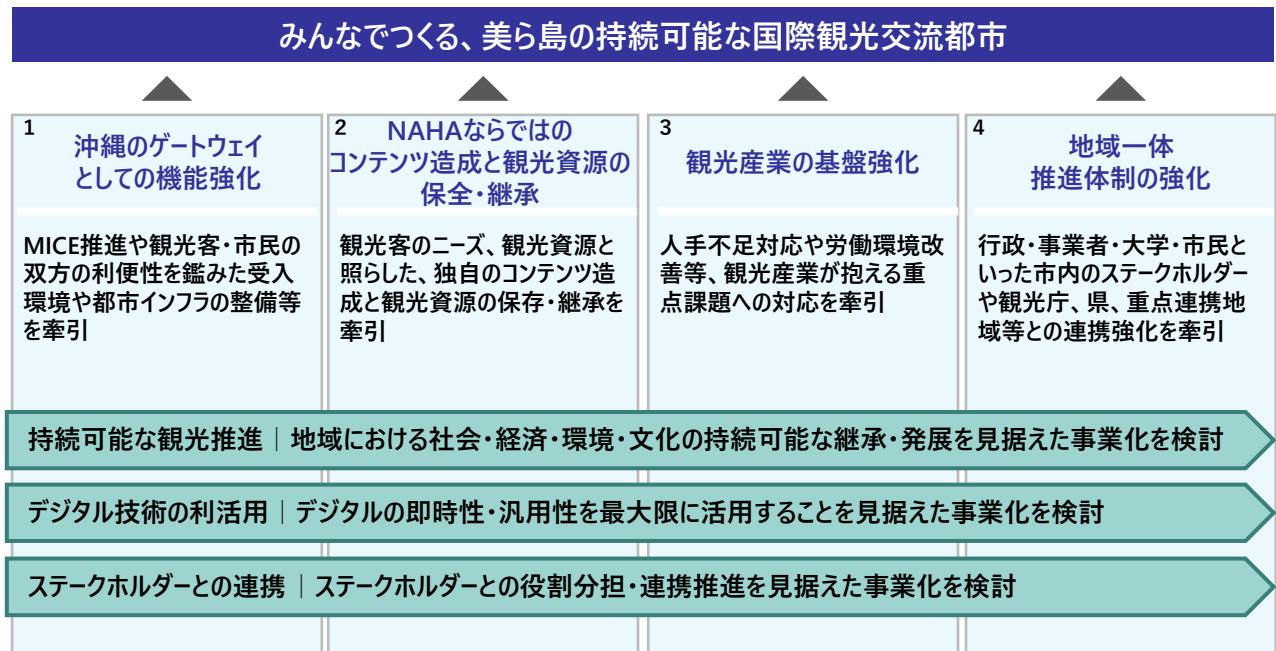
那覇市は、市民、観光事業者、観光客などのステークホルダーが、那覇市の魅力や個性を誇りに持ちつつ、協働して、より魅力や個性が磨き上げられた観光交流都市をつくっていくとともに、新型コロナウイルス感染症が沈静化し国際的な交流が回復する中で、観光を通じた交流拠点だけでなく、国際的なビジネス拠点や物流拠点としてプレゼンスのある観光交流都市を目指します。

写真

2.「取組の柱」と「核とする観点・推進力」

第2章における那覇市の観光を取り巻く状況や第5次那覇市総合計画等を踏まえて、上記の将来像を達成するための「取組の柱」及び各「取組の柱」の実現に向けて重要な観点を「核とする観点・推進力」として抽出しました。

図 第2次観光基本計画における「取組の柱」と「事業化にあたっての核とする観点・推進力」の体系



※取組の柱と事業化にあたっての核とする観点・推進力の詳細説明は次ページ参照

2.「取組の柱」と「核とする観点・推進力」

2/3

(1) 取組の柱

取組の柱1 沖縄のゲートウェイとしての機能強化

沖縄観光は、豊かな自然資源や独自の歴史文化等の観光資源を活かして、観光振興を行ってきており、その中で那覇市は、世界水準のリゾート地「美ら島 沖縄」のゲートウェイとしての機能を果たしてきました。新型コロナウィルス感染症の沈静化に伴い、観光需要が回復し、国内客・海外客ともに観光客数が回復していくことが見込まれます。

今後、国際的な観光交流都市としてのゲートウェイ機能を高めるため、MICEの推進のほか、観光客・市民の利便性向上、回遊の円滑化などを鑑みた受入環境や都市機能の強化に取り組みます。

基本施策 (ア) 国内外からの交通ターミナル機能強化およびクルーズ船受入機能強化

基本施策 (イ) 二次交通の利便性向上等を通じた那覇市内の周遊促進

基本施策 (ウ) MICEの誘致および機能強化、観光の充実

基本施策 (エ) 誰もが楽しめる安全・安心・快適な受入環境の整備

取組の柱2 NAHAならではのコンテンツ造成と観光資源の保全・継承

観光データ等を活用したマーケティングに基づき、市民や市外のリピーター・ファンなどに対して、それぞれの属性やニーズなどを踏まえて、世界遺産である首里城跡を筆頭に、琉球王国の歴史を伝える歴史文化資源や自然資源等の那覇市の既存資源の効果的な観光プロモーションを展開します。

また、那覇市に観光客を誘引し、選ばれ続ける都市であるためには、既存の地域特性を活かした観光資源を磨き上げ、「NAHA」における付加価値の高いコンテンツの創出を図ります。

基本施策 (ア) 那覇ならではの歴史文化・自然・食等を活かしたコンテンツの充実化

基本施策 (イ) データに基づく誘客戦略・プロモーションの実施

基本施策 (ウ) 歴史文化資源や自然資源等観光資源の保全及び継承

取組の柱3 観光産業の基盤強化

那覇市の主要産業である観光産業は人材不足や労働環境が重点課題となっています。これらの重点課題の改善に取り組むことで、観光産業の魅力を向上させ、働き手が観光産業に誇りをもって就労し続けることができるよう観光産業の基盤強化に取り組みます。

また、那覇市内での域内調達の強化等、事業活動の活性化を推進し、那覇市内における観光産業の経済効果の拡大に努めます。

基本施策 (ア) 雇用の確保、労働環境等の改善

基本施策 (イ) 事業の効率化・高付加価値化の推進

基本施策 (ウ) 事業活動の活性化を通じた地域貢献の拡大

2.「取組の柱」と「核とする観点・推進力」

3/3

取組の柱4

地域一体推進体制の強化

那覇市が「持続可能な観光地」づくりを推進していくためには、地域一体となって推進していくことが必要不可欠であり、多様なステークホルダーとの連携が求められます。

地域主体での持続可能な観光地づくりを行うため、観光地域づくりの舵取り役である一般社団法人那覇市観光協会（DMO）の機能強化に取り組むとともに、市民・観光関連事業者の双方に対して観光振興への理解醸成を促進し、官民が一体となった体制で観光地経営に取り組みます。

基本施策（ア）適切な観光地経営に向けたマネジメント機能強化

基本施策（イ）市内外のステークホルダーとの連携強化

基本施策（ウ）市民生活と観光振興の調和

（2）核とする観点・推進力

核とする観点 推進力1

持続可能な観光の推進

持続可能な観光の実現にあたっては、「第6次沖縄県観光振興基本計画が謳う、「世界から選ばれる持続可能な観光地」-世界とつながり、時代を切り拓く「美ら島 沖縄」を踏まえ、地域の持続可能な発展を見据え、社会・経済・文化・環境の持続可能性に配慮し、SDGsの視点を取り入れた観光振興に取り組むこととしています。

核とする観点 推進力2

デジタル技術の利活用

近年の社会情勢をみると、Wi-Fi環境の整備やキャッシュレス決済の普及をはじめ、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）といったデジタル技術が発達し多様な領域でのデジタル化が進んでいます。加えて、コロナを契機にワーケーションやデジタルノマドなどのリモートでの環境整備も拡大しています。観光分野においてもデジタル技術の活用による生産性向上や誘客のあり方に変革をもたらすデジタル・トランスフォーメーション（DX）に積極的に取り組むことで、観光関連事業者の事業効率化や観光客の利便性の向上に繋げます。

核とする観点 推進力3

ステークホルダーとの連携

持続可能な観光を推進し、那覇市が掲げる将来像を実現することは、行政だけの力では達成することができません。市民・観光客・観光関連事業者・振興関連団体・行政が一体となって、観光振興に取り組むことで、持続可能な観光につながる新たな価値を生み出すと考えています。各ステークホルダーの意見を汲み取る場を積極的に設け、ステークホルダーと那覇市の将来を共に創り上げることで、将来像の実現を目指します。

3. 目標値

1/2

(1) KGI・KPIの策定

本計画では、将来像実現の進捗把握のために関連するステークホルダーごとにKGIを設定し、各取組の柱の進捗把握のために基本施策ごとのKPIを設定しております。本KGI・KPIは、中間評価（5年後）および最終評価（10年後）における計画進捗度評価に活用し、各種取組の見直しの参考としてまいります。

図表 第2次観光基本計画

将来像	関連するステークホルダー
みんなでつくる、 美ら島の持続可能な 国際観光交流都市	全体
	市民
	観光関連事業者
	観光客

	基本施策
1. 沖縄のゲートウェイ としての機能強化	<p>(ア) 国内外からの交通ターミナル機能強化及びクルーズ船受入機能強化</p> <p>(イ) 二次交通の利便性向上等を通じた那覇市内の周遊促進</p> <p>(ウ) MICE誘致および機能強化、観光の充実</p> <p>(エ) 誰もが楽しめる安全・安心・快適な受入環境の整備</p>
2.NAHAならではの コンテンツ造成と 観光資源の保全・継承	<p>(ア) 那覇ならではの歴史文化・自然・食等を活かしたコンテンツの充実化</p> <p>(イ) データに基づく誘客戦略・プロモーションの実施</p> <p>(ウ) 歴史文化資源や自然資源等観光資源の保全及び継承</p>
3.観光産業の基盤強化	<p>(ア) 雇用の確保、労働環境等の改善</p> <p>(イ) 事業の効率化・高付加価値化の推進</p> <p>(ウ) 事業活動の活性化を通じた地域貢献の拡大</p>
4.地域一体推進体制の 強化	<p>(ア) 適切な観光地経営に向けたマネジメント機能強化</p> <p>(イ) 市内外のステークホルダーとの連携強化</p> <p>(ウ) 市民生活と観光振興の調和</p>

3. 目標値

2/2

なお、下記に記載「基準値」に記載がない項目に関しては、2025年度（令和7年度）に調査を実施し、「基準値」の数値が確定し次第、目標値を順次設定いたします。

におけるKGI・KPI及び目標値

KGI	目標値		
	2023年	2029年	2034年
● 観光収入（国内観光客のうち、市内宿泊客のみ対象）	3,644億円	5,000億円	6,200億円
● 観光客に来訪してほしいと思う市民の割合	63.0%	68.0%	73.0%
● 観光関連事業者が感じている観光産業全体における景況感	-	-	-
● 再来訪意向	78.8%	80.5%	82.0%

KPI	目標値		
	2023年	2029年	2034年
● 空港やクルーズターミナル等での受入環境整備に対する観光客の満足度	-	-	-
● 二次交通の利便性に係る観光客の満足度	-	-	-
● 那覇市におけるMICE開催件数（※1）	227件	380件	540件
● 観光客の那覇市観光の総合満足度	95.9%	95.0%以上	95.0%以上
● 観光客の消費額単価（国内観光客のうち、市内宿泊客のみ対象）	71,229円	98,000円	120,000円
● 那覇市内で体験コンテンツを体験した観光客の割合	55.7%	65.0%	70.0%
● 観光客に対する首里織や壺屋焼等の特産品の認知度	-	-	-
● 歴史文化・自然資源の保全・継承に寄与する関連活動に取り組む観光関連事業者の割合	-	-	-
● 人手不足を課題に感じている観光関連事業者の割合	-	-	-
● 今後も観光産業に従事し続けたいと思う観光関連事業従事者の割合	-	-	-
● ICT技術等のデジタル技術導入を進める観光関連事業者の割合	-	-	-
● 具体的に地域貢献に取り組む観光関連事業者の割合	-	-	-
● JSTS-Dに係るアセスメントを踏まえた課題対応件数	-	3	3
● 市外ステークホルダー（国・県・他市町村等）との連携事業件数（※2）	※確認中	3	3
● 市民の観光振興によって市にメリットがあると感じる市民の割合	42.7%	50.0%	60.0%
● 市民の観光振興によって市にデメリットがあると感じる市民の割合	53.5%	45.0%	35.0%

※1：沖縄県「沖縄県 MICE 開催実態調査ガイドライン」（令和5年度）に沿って調査を実施

※2：市内の観光関連事業者等との連携は他の基本施策内で多く対応しているため、KPIでは設定しない

4. 観光ゾーニング

1/2

(1) 観光ゾーニングの目的と位置づけ

観光ゾーニングは、那覇市が保有する観光資源、歴史文化資源、自然資源の特性、また土地の特性に合わせて、エリアを区分し、観光機能や観光利用の方向性を想定するものです。観光ゾーニングは法的に担保性を持つものではありませんが、都市整備や歴史文化資源・自然資源の保護・保全計画と連携していくものです。

(2) 観光ゾーニングの基本的考え方

観光ゾーニングの区分は観光機能面において重点的に機能を担うエリアを設定していますが、設定されていない他地区においても観光資源の保護充実を図ります。

観光交流都市として、独自の歴史文化資源や自然資源の保全を重視しつつ、それらと共生した観光利用を図ります。

従来の観光資源（首里城、識名園）や中心市街地（国際通り）を核としながら、周辺の市街地への回遊も想定した面としての利活用を図ります。

ゾーニングは観光機能の方向性と共に、那覇らしい景観・風景の醸出も踏まえたものとします。

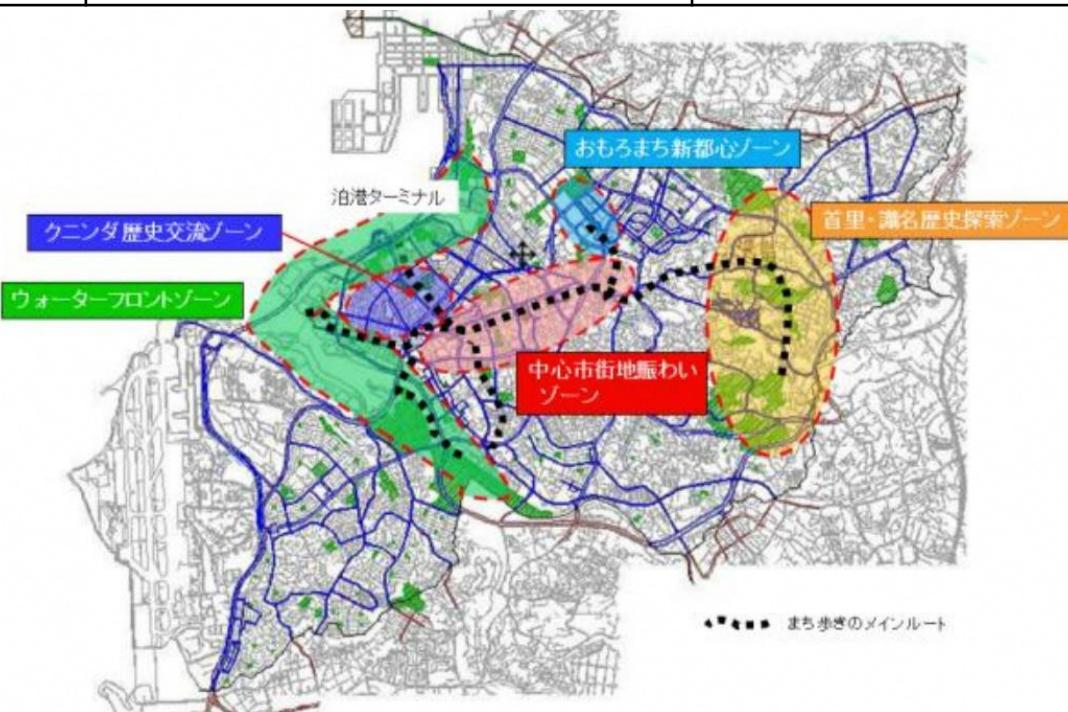
各ゾーンを連絡するまち歩きルートを設定し、その途上に那覇文化に触れられるスポットへの支線をめぐらせることを想定しています。

4. 観光ゾーニング

2/2

図表 ゾーニング区分

ゾーン区分	観光機能	観光客の楽しみ方
中心市街地 賑わいゾーン	国際通りを中心しながら、周辺の街区、店舗を歩いて探索するゾーン。ショッピング、飲食を楽しむことができるゾーン。	沖縄物産、土産と地域の逸品探し。地域の隠れた店舗、飲食店の発見。まち歩きと食・ショッピングを楽しむ。利便性の良い市街地に泊まる。
首里・識名歴史探索ゾーン	首里城及び識名園を核とし、じっくり沖縄文化の歴史を学び楽しむゾーン。「琉球の散歩道（仮称）」により、散策、サイクリング、ゆいレールを使い分け、他のエリアと行き来しながら那覇のまちを堪能する。	時間や興味に応じた琉球王国の歴史文化を楽しめるメニューやまち歩きを楽しむ。都市の中で歴史文化に包まれ、異空間と居心地の良さを感じる。
おもろまち 新都心ゾーン	新都心で宿泊し、県立博物館などで沖縄について学びながら散策し、首里城など周辺観光への拠点となるゾーン。また免税店など大型店舗でのショッピングを楽しめるゾーン。	市街地での宿泊とは異なる開放的な宿泊拠点。博物館などで沖縄の歴史文化を学び、芸術に触れる。ショッピングを楽しむ。
ウォーターフロントゾーン	那覇クルーズターミナル、那覇第2クルーズバースを中心としたクルーズ船の寄港地であり、クルーズ船利用客が一番最初に訪れるゾーン。また波の上ビーチや泊漁港などマリンアクティビティや食を堪能することができるゾーン。	市街地から歩いて行けるビーチを堪能する。クルーズ船の利用者は那覇の港を堪能する。那覇マグロを中心とした沖縄の水産業やマリンアクティビティを楽しむ。
クニンダ歴史 交流ゾーン	中心市街地賑わいゾーンとウォーターフロントを繋ぐゾーン。観光客に知られていない歴史地区としてアピールする。	市街地の賑わいから、海辺へいざなう散歩道。かつての旧市街地で歴史文化を探索する。



第4章 取組の体系および具体的な内容

1. 取組の体系
2. 取組の内容

1. 取組の体系

1/2

将来像

みんなでつくる、美ら島の持続可能な国際観光交流都市

取組の柱	基本施策
1. 沖縄のゲートウェイとしての機能強化	<p>(ア) 国内外からの交通ターミナル機能強化及びクルーズ船受入機能強化 P.43</p> <p>(イ) 二次交通の利便性向上等を通じた那覇市内外の周遊促進 P.44</p> <p>(ウ) MICE観光の誘致及び機能強化、観光の充実 P.45</p> <p>(エ) 誰もが楽しめる安全・安心・快適な受入環境の整備 P.46</p>
2.NAHAならではのコンテンツ造成と観光資源の保全・継承	<p>(ア) 那覇ならではの歴史文化・自然・食等を活かしたコンテンツの充実化 P.47</p> <p>(イ) データに基づく誘客戦略・プロモーションの実施 P.48</p> <p>(ウ) 歴史文化資源や自然資源等観光資源の保全及び継承 P.49</p>
3.観光産業の基盤強化	<p>(ア) 雇用の確保、労働環境等の改善 P.50</p> <p>(イ) 事業の効率化・高付加価値化を通じた「稼ぐ力」の向上 P.51</p> <p>(ウ) 事業活動の活性化を通じた地域貢献の拡大 P.52</p>
4.地域一体推進体制の強化	<p>(ア) 適切な観光地経営に向けたマネジメント機能・体制の構築 P.53</p> <p>(イ) 市内外のステークホルダーとの連携強化 P.54</p> <p>(ウ) 市民生活と観光振興の調和 P.55</p>

1. 取組の体系

2/2

取組概要

- ◆ 空港・港等における、歴史・伝統文化に興味を惹きつけるための仕組みづくり・おもてなし向上
- ◆ 空港・港から市街地への円滑かつ最適な移動手段の充実化及び快適な移動に向けた景観づくり
- ◆ 事業者と連携した、交通結節点周辺の公共スペース等を活用した物販等消費単価向上
- ◆ アプリやデジタルサイネージ等を活用した主要施設等の交通案内の充実化
- ◆ まち歩きを楽しめる、安心かつ魅力的な歩道空間・景観づくり
- ◆ 混雑情報・周遊ルート発信やプリンジパーキング等による混雑緩和及び市内周遊の促進
- ◆ 推進主体と関係機関、地域事業者等と連携した受入体制構築
- ◆ 那覇ならではの文化・芸術・伝統・食を活用したMICE向けコンテンツ開発・ユニークベニュー・アフターMICEの促進
- ◆ ターゲットを見据えた効果的な誘致活動
- ◆ 外国語表記や対応の充実化等の外国人観光客の受入体制の整備・強化
- ◆ 障がい者、LGBTQ+、高齢者等あらゆる観光客に配慮したユニバーサルな受入環境整備の促進
- ◆ 感染症や災害等に備えた対応強化
- ◆ 観光における安全性確保や迷惑防止に対する対応強化
- ◆ 観光客平準化を見据えた、季節ごと・時間ごとの観光コンテンツの開発
- ◆ 歴史文化・食文化・生活文化等を活用した体験メニューの充実化
- ◆ 伝統工芸品（壺屋焼き、首里織等）や食材（なはまぐろ等）をはじめとする地場産品、特産品等の創造・磨き上げ
- ◆ 那覇市の観光ゾーニングを踏まえたまち歩きの促進
- ◆ マーケティング調査データ・分析を踏まえた、性別や年代、国籍等の属性ごとのニーズや特徴の把握
- ◆ 県内外の旅行会社に対する説明会等を活用したプロモーション
- ◆ SNSやアプリ、QRコード等を活用した、情報発信の充実化
- ◆ 歴史文化・芸術資源の普及・学びの機会の創出
- ◆ 那覇ならではの歴史文化・自然・食等の観光資源に関する専門知識を有する人材の育成
- ◆ 外国人材やUターン・Iターン等の多様な人材の雇用確保に向けた支援
- ◆ 教育機関との連携による、将来的な観光産業の担い手のきっかけづくり・育成
- ◆ 労働環境改善等の取組推進に向けた事業者への啓発
- ◆ 観光事業者のデジタル人材育成やデジタル技術導入の支援
- ◆ 観光事業者向けのオープンデータの整備・公開、データ活用の促進
- ◆ 観光関連事業者向けの、語学や“うとういむち”（おもてなし）等のスキルアップ講座の開設
- ◆ 事業者の新規取組に向けた、観光事業者の相談受入・取組支援
- ◆ 域内調達率の向上促進
- ◆ 観光関連事業者等による省エネルギー・廃棄物抑制等、環境に配慮した事業活動への支援
- ◆ ボランティア活動等を通じた、観光関連事業者の地域活動への参画や市民との交流の促進
- ◆ JSTS-D等の国際基準を踏まえた持続可能な観光地経営の推進
- ◆ 観光協会の組織経営やマーケティング等の専門人材の育成・登用の支援
- ◆ 市内の多様なステークホルダーからの意見の吸い上げ及び施策への反映
- ◆ DMOや周辺地域及び離島と連携した周遊促進
- ◆ 観光庁やJNTO等の国際機関との連携促進
- ◆ 市民フォーラム等の開催を通じた観光振興に対する理解の醸成
- ◆ 定期的な市民の観光振興に対する意向の調査及び施策への反映
- ◆ 公開講座等による、観光客の受入を見据えた異文化交流の促進

2. 取組の内容

1/13

取組の柱1 沖縄のゲートウェイとしての機能強化

基本施策（ア） 国内外からの交通ターミナル機能強化及びクルーズ船受入機能強化

国際的なリゾート地である沖縄の拠点都市としてのプレゼンスを確立し持続的に成長していくために、交通ターミナル機能の強化を図ります。また、アフターコロナにおける今後の需要拡大が見込まれるクルーズ船の受入機能の強化に向けた取組を推進します。

【取組概要】

◆ 空港・港等における、歴史・伝統文化に興味を惹きつけるための仕組みづくり・おもてなし向上

那覇市の歴史や伝統文化を発信できるような展示等を通じて、那覇空港や那覇港等の主要な交通結節点を利用する観光客に那覇の歴史や伝統文化を認識できる機会を提供します。

〈実施主体〉

観光課 那覇市観光協会

写真

◆ 空港・港等から市街地への円滑かつ最適な移動手段の充実化及び快適な移動に向けた景観づくり

那覇空港やクルーズバース等の主要な交通結節点から中心市街地までをタクシーやバス等の交通事業者との連携を活用し、円滑かつ快適に移動できるように手段の充実化を図るとともに、利用者に分かりやすようなサインの掲示等、快適な移動に向けて景観づくりを推進します。

〈実施主体〉

観光課 都市計画課 道路建設課
道路管理課 観光関連事業者

写真

◆ 事業者と連携した、交通結節点周辺の公共スペース等を活用した物販等消費単価向上

那覇市が有する観光資源等を活用し、新たな特産品や土産品の企画・開発支援を行うとともに、那覇空港や那覇港等での販売を促進します。

〈実施主体〉

商工農水課 観光関連事業者

写真

2. 取組の内容

2/13

基本施策（イ）

二次交通の利便性向上等を通じた那覇市内外の周遊促進

那覇市内および周辺地域における周遊観光を促進していくために、交通結節点の整備・機能強化と那覇空港や那覇港等の主要な交通結節点からの二次交通の利便性向上を図ります。また、観光客と市民の双方に配慮をしながら交通対策への取組を推進します。

【取組概要】

◆ アプリやデジタルサイネージ等を活用した主要施設等での交通案内の充実化

県と連携し、公共交通機関の主要な停留所におけるデジタルサイネージ等の設置やアプリ・デジタルサイネージ内の情報整理を通じて、観光客のソフト面における受入環境整備を推進します。

〈実施主体〉

道路建設課

観光関連事業者

写真



◆ まち歩きを楽しめる、安心かつ魅力的な歩道空間・景観づくり

トランジットモール等の活用や、立体植栽等を通じた「那覇らしい」景観整備等、「居心地がよく歩きたくなる」ウォーカブルな歩道空間・景観づくりを実施します。

〈実施主体〉

観光課

なはまち振興課

道路管理課

公園管理課

写真



◆ 混雑情報・周遊ルート発信やフリンジパーキング等による混雑緩和及び市内周遊の促進

フリンジパーキングやシェアサイクル等の活用促進及び周遊ルートの整備・周知活動により、那覇市の交通渋滞対策及び周遊促進に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課

都市計画課

道路建設課

道路管理課

写真



2. 取組の内容

3/13

基本施策（ウ）

MICEの誘致及び機能強化、観光の充実

令和6年度に策定した那覇市都市型MICE振興戦略を踏まえながら、地域事業者や関係機関との連携により、国際的な観光交流都市としての受入体制・機能を強化し、MICE主催者等への支援などを通して、地域への経済効果の取り込みや観光客の平準化に繋げます。

【取組概要】

◆ 推進主体と関係機関、地域事業者等と連携した受入体制構築

那覇市を中心に那覇市観光協会をはじめとする関係機関や地域事業者等と連携しMICE受入体制を構築し、MICE受入を推進します。

写真

〈実施主体〉

観光課 **那覇市観光協会** 観光関連事業者

◆ 那覇ならではの文化・芸術・伝統・食を活用したMICE向け

コンテンツ開発・ユニークベニュー・アフターMICEの促進

那覇文化芸術劇場なはーとや識名園等を活用したMICE機会の拡充に加え、琉球舞踊やエイサー、空手等の伝統文化や琉球料理等の食文化を体験してもらう取組を推進します。

写真

〈実施主体〉

観光課 文化振興課 文化財課

なはまち振興課 **那覇市観光協会**

◆ スポーツイベントやキャンプ等の誘致・開催促進を通じたスポーツ

コンベンションの推進

那覇市のスポーツコンベンション拠点を活用したプロ野球キャンプ等を推進するとともに、国内外から多くの参加実績を有するNAHAマラソン等のスポーツイベントを推進します。

写真

〈実施主体〉

観光課 市民スポーツ課

◆ ターゲットを見据えた効果的な誘致活動

那覇市都市型MICE振興戦略に沿って、経済振興とまちづくりに寄与するMICEの開催誘致に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課 **那覇市観光協会**

写真

2. 取組の内容

4/13

基本施策（工）

誰もが楽しめる安全・安心・快適な受入環境の整備

那覇市内における、より質の高い観光に向けて、年齢・性別・国籍を問わず誰もが安心・安全・快適に観光できることを念頭に、SDGsの考えも踏まえたうえで、ハード・ソフト両面の受入環境を整備します。

【取組概要】

◆ 外国語表記や対応の充実化等の外国人観光客の受入体制の整備・強化

観光案内所や「那覇まちま～い」における外国語対応強化や飲食店等における多言語化の推進等、外国人観光客の受入体制の整備・強化に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課 なはまち振興課 那覇市観光協会

観光関連事業者 教育機関

写真

◆ 障がい者、LGBTQ+、高齢者等あらゆる観光客に配慮したユニバーサルな受入環境整備の促進

那覇市の観光振興に携わる人を対象として、バリアフリーに関する学習機会を提供するとともに、那覇市バリアフリー基本構想等に沿って、観光関連事業者と連携し市内の観光施設や交通公園、飲食関連施設等のユニバーサルデザイン化を推進します。

写真

〈実施主体〉

道路建設課 都市計画課 道路管理課

福祉政策課 那覇市観光協会 観光関連事業者

◆ 感染症や災害等に備えた非常時の対応強化

感染症や災害等の非常時において、観光関連事業者、那覇市民、観光客に対する対応強化に向けた観光危機管理の取組を推進します。

写真

〈実施主体〉

観光課 保健総務課 予防課

防災危機管理課 救急課 生活衛生課

建築指導課 観光関連事業者

◆ 観光における安全性確保や迷惑防止に対する対応強化

マリンレジャー等を安全に楽しむための注意喚起、観光地での防犯意識の向上、客引き等の迷惑防止行為等の防止に取り組みます。

写真

〈実施主体〉

観光課 市民生活安全課 観光関連事業者

観光関連事業者

2. 取組の内容

5/13

取組の柱2

NAHAならではのコンテンツ造成と観光資源の保全・継承

基本施策 (ア)

那覇ならではの歴史文化・自然・食等を活かしたコンテンツの充実化

那覇ならではの歴史文化・特産物等を保全し次世代に継承しながら、生活文化や、若者文化の新たな資源を活かしたコンテンツの発掘・創造・磨き上げを行い、那覇でしかできない体験の提供に取り組みます。また、環境・生態系等の自然を守りつつ、マリンレジャー等の自然を生かしたコンテンツの充実化に取り組みます。

【取組概要】

◆ 滞在促進や消費向上に向けた観光コンテンツの開発及び支援

なはまぐろの食体験や波の上ビーチでのマリンレジャー等の那覇市が有する観光資源を活用したコンテンツや、ナイトタイム・早朝のコンテンツ、クリエイティブ産業と連携したコンテンツ造成に取り組みます。

写真

〈実施主体〉

観光課

商工農水課

観光関連事業者

◆ 歴史文化・食文化・生活文化等を活用した体験メニュー・イベントの充実化

那覇市指定無形民俗文化財に指定されている伝統芸能等の琉球文化の体験機会や琉球料理等の「食」をテーマとした体験型コンテンツの充実化を図ります。また、那覇ハーリーや那覇大綱挽まつり、琉球王朝祭り首里等の歴史文化イベントを活用し、観光客の誘客を推進します。

写真

〈実施主体〉

観光課

商工農水課

なはまち振興課

文化振興課

文化財課

観光関連事業者

◆ 伝統工芸品（壺屋焼き、首里織等）や食材（なはまぐろ等）をはじめとする地場産品、特産品等の創造・磨き上げ

壺屋焼き、首里織やなはまぐろのような地場産品・特産品の既存商品の販売促進活動支援や、若者文化等の新たな資源の創造支援を通じて、那覇市ならではの歴史文化・食等の磨き上げを図ります。

写真

〈実施主体〉

商工農水課

那覇市観光協会

観光関連事業者

◆ 那覇市の観光ゾーニングを踏まえたまち歩きの促進

観光ゾーニングで設定している重点エリアへの市民・観光客の誘客を見据え、商店街の活性化等の那覇市内広域の周遊促進に向けた取組の強化を図ります。

写真

〈実施主体〉

商工農水課

文化財課

那覇市観光協会

2. 取組の内容

6/13

基本施策（イ）

データに基づく誘客戦略・プロモーションの実施

データに基づきながら、来訪者の属性ごとに適切な誘客・プロモーションをステークホルダーと連携して行います。また、情報発信にあたっては、発信方法を来訪者のニーズに合わせて常に最適化を図っていきます。

【取組概要】

◆ マーケティング調査データ・分析を踏まえた、性別や年代、国籍等の属性ごとのニーズや特徴の把握

那覇市観光協会や観光関連事業者等のステークホルダーと連携しながら、性別や年代、国籍等の那覇市への来訪者属性に沿ったニーズや観光の特徴を把握します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

観光関連事業者

写真

◆ 県内外の旅行会社に対する説明会等を活用したプロモーション

プロモーションフィールドを最大限活用し、旅行会社への誘客を図るとともに、那覇市における安心・安全・快適な観光に向けた取組を旅行会社を通じて観光客に周知します。

写真

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

◆ SNSやアプリ、QRコード等を活用した情報発信の充実化

旅マエ・旅アトにおいては、那覇市や那覇市観光協会の公式ホームページやSNS、各種旅行サイトと連携してなはまぐろをはじめとする那覇市の特産品等の那覇ブランド周知に取り組みます。旅ナカにおいては、上記に加え、デジタルサイネージを活用し、タイムリーな情報を発信できるよう取組を強化します。

写真

〈実施主体〉

観光課

商工農水課

秘書広報課

なはまち振興課

那覇市観光協会

観光関連事業者

2. 取組の内容

7/13

基本施策（ウ）

歴史文化資源や自然資源等観光資源の保全及び継承

世界遺産である首里城跡を筆頭に、琉球王国の歴史文化を伝える有形及び無形の歴史文化資源や自然資源等の維持保全を推進するとともに、那覇市の文化芸術の担い手や観光ガイドの育成を通じて次世代への観光資源の継承に取り組みます。

【取組概要】

◆歴史文化・芸術資源の普及・学びの機会の創出

琉球王国の歴史文化を伝える有形・無形の歴史文化資源の保全に取り組むとともに、市民及び観光客向けに地域に根差す伝統文化に触れる機会や保全・継承の方法等を学ぶ機会を「那覇文化芸術劇場なはーと」や学校等と共に創出します。

〈実施主体〉

観光課

文化振興課

文化財課

那覇市観光協会

教育機関

写真

◆那覇ならではの歴史文化・自然・食等の観光資源に関する専門知識を有する人材の育成

那覇市の観光資源を後世へ継承し、持続的に活用し続けることを見据えて、那覇市の観光資源の保全方法をはじめとする適切な知識を観光客に伝えることができるガイドや歴史文化の担い手等の育成に取り組みます。

〈実施主体〉

観光課

文化振興課

那覇市観光協会

観光関連事業者

写真

2. 取組の内容

8/13

取組の柱3

観光産業の基盤強化

基本施策 (ア)

雇用の確保、労働環境等の改善

特に次世代を担う若者にとって魅力があり、就業したいと思われる観光産業を目指して、沖縄県や業界団体、那覇市の他部署と連携しながら雇用・労働環境の整備にかかる取組を推進します。

【取組概要】

◆ 外国人材やUターン・Iターン等の多様な人材の雇用確保に向けた支援

市内事業者と多様な人材とのマッチングや長期的な雇用を促す人材雇用・育成支援等の整備を通じて、観光産業の雇用確保に取り組みます。

写真

〈実施主体〉

商工農水課

観光関連事業者

◆ 教育機関との連携による、将来的な観光産業の担い手のきっかけづくり・育成

小学校から大学までの教育機関と観光関連事業者による产学連携を促進し、観光産業を目の前で見て体験する機会を通じて「学生」へ観光産業の魅力を伝えることで観光産業における創業・就職を促進します。

写真

〈実施主体〉

観光課

商工農水課

那覇市観光協会

教育機関

観光関連事業者

◆ 労働環境改善等の取組推進に向けた事業者への啓発

観光関連事業者を対象として、採用活動支援を行うとともに、従事者の労働環境改善に向けた支援を行うことで観光産業における定着率の向上を図ります。

写真

〈実施主体〉

商工農水課

2. 取組の内容

9/13

基本施策（イ）

事業の効率化・高付加価値化の推進を通じた「稼ぐ力」の向上

観光産業の持続的な発展に向けて、デジタル技術の導入支援や従事者のスキルアップ支援、新規事業支援等の観光関連事業者の「稼ぐ力」向上に向けた事業の効率化・高付加価値化を推進します。

【取組概要】

◆ 観光事業者のデジタル人材育成やデジタル技術導入の支援

市内事業者がDX推進人材を雇用・育成する際の支援に加えて、国や県が展開するキャッシュレス決済環境や多言語化等のデジタル技術導入に向けた各種支援内容を周知し、生産性向上に向けた取組の支援を行います。

写真

〈実施主体〉

観光課 商工農水課 観光関連事業者

◆ 観光事業者向けのオープンデータの整備・公開、データ活用の促進

リアルタイムのフライト予約数・宿泊施設予約数・日別施設訪問者数等のオープンデータを整備・公開するとともに、データの活用方法の理解醸成等、観光関連事業者の利用促進に向けた取組を推進します。

写真

〈実施主体〉

観光課 那覇市観光協会 観光関連事業者

◆ 観光関連事業者向けの、語学や“うとういむち”（おもてなし）等のスキルアップ講座の開設

来訪者に対する那覇らしさの提供を見据えて、観光関連事業者を対象とした語学やおもてなし等の学習機会を提供します。

写真

〈実施主体〉

生涯学習課 観光関連事業者 教育機関

◆ 事業者の新規取組に向けた、観光事業者の相談受入・取組支援

庁内における産業振興分野に知見を有する課と連携しながら、観光関連事業者を対象とした創業・就職支援、及び観光コンテンツの創出支援等を推進します。

写真

〈実施主体〉

観光課 商工農水課

2. 取組の内容

10/13

基本施策（ウ）

事業活動の活性化を通じた地域貢献の拡大

観光産業を地域に根差したものとして、那覇市の地域社会と共に存しながら持続的に発展させるために、事業活動と地域社会の活性化の両輪に貢献する取組を推進します。

【取組概要】

◆ 域内調達率の向上促進

那覇市の伝統工芸品や食材（なはまぐろ等）をはじめとする地場産品、特産品を観光関連事業者へ継続的に周知するとともに、第一牧志公設市場や泊いゆまち等の利用促進を図ることで那覇市内の事業者から調達する割合を高めます。また、既存の資源の活用だけでなく、地域主導で新たな観光資源・コンテンツ創出・活用の支援も行います。

写真

〈実施主体〉

商工農水課

観光関連事業者

◆ 観光関連事業者等による省エネルギーや廃棄物抑制等、環境に配慮した事業活動への支援

観光客や観光関連事業者が排出するごみの減量や食品ロスの削減等の那覇市の環境保全への貢献を可視化できるサステナブルツーリズム・エコツーリズムの推進など、環境保全に向けた取組の支援を行います。

写真

〈実施主体〉

観光課

環境政策課

企画調整課

観光関連事業者

教育機関

◆ ボランティア活動等を通じた、観光関連事業者の地域活動への参画

観光関連事業者参加型で推進する景観整備や那覇市の環境を守っていくための講習会等を通じて、観光関連事業者による地域活動への参画機会を提供します。

写真

〈実施主体〉

道路管理課

環境政策課

那覇市観光協会

観光関連事業者

2. 取組の内容

11/13

取組の柱4

地域一体推進体制の強化

基本施策（ア）

適切な観光地経営に向けたマネジメント機能強化

観光地域づくりの舵取り役である一般社団法人那覇市観光協会（DMO）を中心に、必要な機能、担うべき役割や責任等を定めたうえで、推進体制をブラッシュアップするとともにPDCAサイクルの円滑化を図ります。また、観光地経営にあたっては、安定的な財源を確保しながら実施していきます。

【取組概要】

◆ JSTS-D等の国際基準を踏まえた持続可能な観光地経営の推進

持続可能な観光推進を継続的に取り組むことを見据え、定期的にアセスメントを実施するとともに、JSTS-D等の国際基準に沿った取組推進を支援します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

写真

◆ 観光協会の組織経営やマーケティング等の専門人材の育成・登用の支援

那覇市の観光地経営の舵取り役である那覇市観光協会が、データに基づいた観光マーケティングを展開するための専門人材育成・登用を支援します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

写真

2. 取組の内容

12/13

基本施策（イ）

市内外のステークホルダーとの連携強化

那覇市観光協会や観光関連事業者と密に連携し、地域一体となった推進体制の強化を図ります。また、沖縄県、周辺市町村等の外部の多様なステークホルダーとも継続的に連携強化を図っていきます。

【取組概要】

◆ 市内の多様なステークホルダーからの意見の吸い上げ及び施策への反映

那覇市観光協会や観光関連事業者が参画する各種協議会や市民・観光関連事業者へのアンケート等を通じて、各ステークホルダーから那覇市の観光振興に対する意見を適時・適切に吸い上げ、中間見直し等において意見を参考・反映します。

〈実施主体〉

観光課

企画調整課

那覇市観光協会

写真

◆ DMOや周辺地域及び離島との連携

沖縄県や沖縄観光コンベンションビューロー、周辺市町村や離島と密に連携し、周辺市町村や離島等の観光振興を進めます。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

写真

◆ 観光庁やJNTO等の国際機関との連携促進

省庁が展開する補助事業や実証事業への参画・対外的なプロモーションを通じて、観光庁やJNTO等の国際機関との連携を強化します。

〈実施主体〉

観光課

那覇市観光協会

写真

2. 取組の内容

13/13

基本施策（ウ）

市民生活と観光振興の調和

観光振興が市民生活に及ぼす影響を市民に周知することで、観光振興に対する理解や貢献意欲を醸成するとともに、市民と連携しながら観光地域づくりに取り組みます。また、市民生活に生じうる悪影響に対しては、オーバーツーリズムへの対策等により、市民生活と観光振興の調和を図ります。

【取組概要】

◆ 市民フォーラム等の開催を通じた観光振興に対する理解の醸成

市民フォーラムや伝統文化へのふれあい機会等の那覇市民が直接参加できるイベントを通じて、市民が那覇市の魅力を知るとともに、観光振興のメリットを共有し、観光振興に対する理解を醸成します。

写真

〈実施主体〉

観光課

文化振興課

◆ 定期的な市民の観光振興に対する意向調査及び施策への反映

那覇市が継続的に実施している市民意識調査等を通じて、那覇市民と連携して地域一体で観光振興を進めていくために、観光振興に対する満足度や要望等を吸い上げ、中間見直し等において意見を参考・反映します。

写真

〈実施主体〉

観光課

企画調整課

◆ 公開講座等による、観光客の受入を見据えた異文化交流に係る学習機会の提供

那覇市において、従来から展開している公開講座等を通じて、インバウンド旅行客の考え方方に触れる異文化交流の機会を造成し、異文化への理解の醸成を促進します。

写真

〈実施主体〉

商工農水課

生涯学習課

第5章 推進体制と進捗マネジメント

1. 推進体制の概要と基本役割
2. 進捗のマネジメント

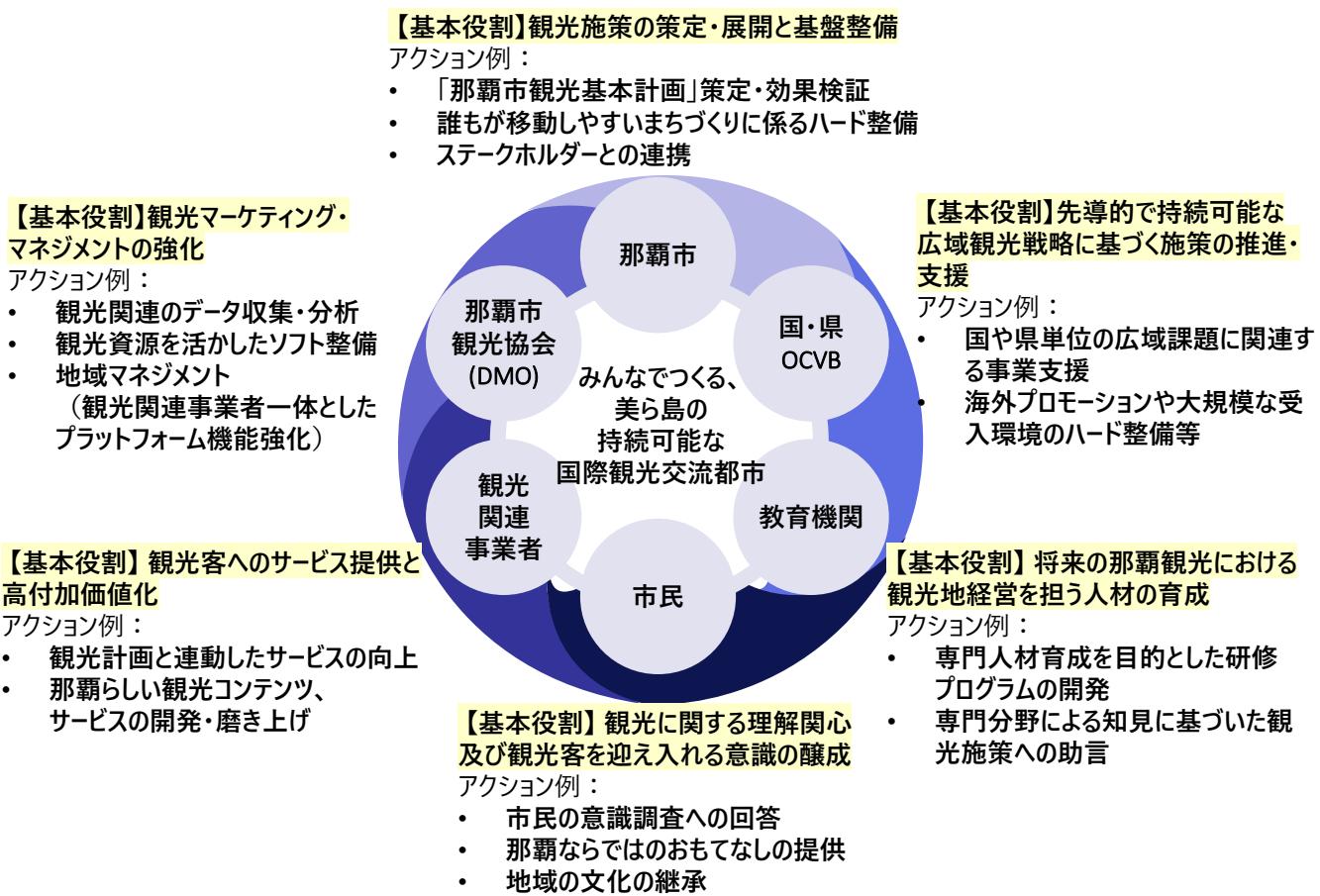
1. 推進体制の概要と基本役割

1/2

本計画では、那覇市、那覇市観光協会（DMO）、観光関連事業者、教育機関、市民が那覇市観光の将来像を共有し、それぞれの役割分担を踏まえた上で連携、協働して計画推進に取り組みます。

那覇市は、国・県などとの調整・連携を図り、庁内関係部課との横断的連携により本計画を総合的に推進する役割を担います。那覇市観光協会（DMO）は、那覇市との連携をより一層強めることで、本市の観光振興を効果的・効率的に遂行することに努めます。

図 第2次那覇市観光基本計画の推進体制と基本役割



2. 計画進捗のマネジメント

本計画の推進にあたっては、「1. 推進体制の概要と基本役割」で示す観光関連団体それぞれが役割を担いながら相互に連携して取り組むとともに、適切な進捗マネジメントが不可欠です。

そのために、庁内での進捗管理や、観光関連団体で構成される協議会（観光審議会等）を通じて、幅広い分野にまたがる本計画の各種施策を円滑に推進していくとともにPDCAサイクルに基づいて進捗のマネジメントを図ります。

また、中間の5年目には、上記の進捗マネジメントに加えてアンケート調査やパブリックコメントでの意見収集を通じた、関係団体からの意見や社会情勢の変化、客観的な進捗評価等に基づき、必要な計画の見直しを行い計画の着実な推進を目指します。



【参考】用語解説

用語解説

用語

解説

今後要更新